

210
3

高等商業學校一覽

明治廿五、廿六年

高等商業學校一覽

目次

一 沿革概畧

官制及商議委員會規程

商議委員及職員

學費

規則

總則

學級及學科課程

學年學期休業規程

入學在學退學規程

就業進級及卒業規程

目錄



一

五

八

十五

十七

全

十八

十九

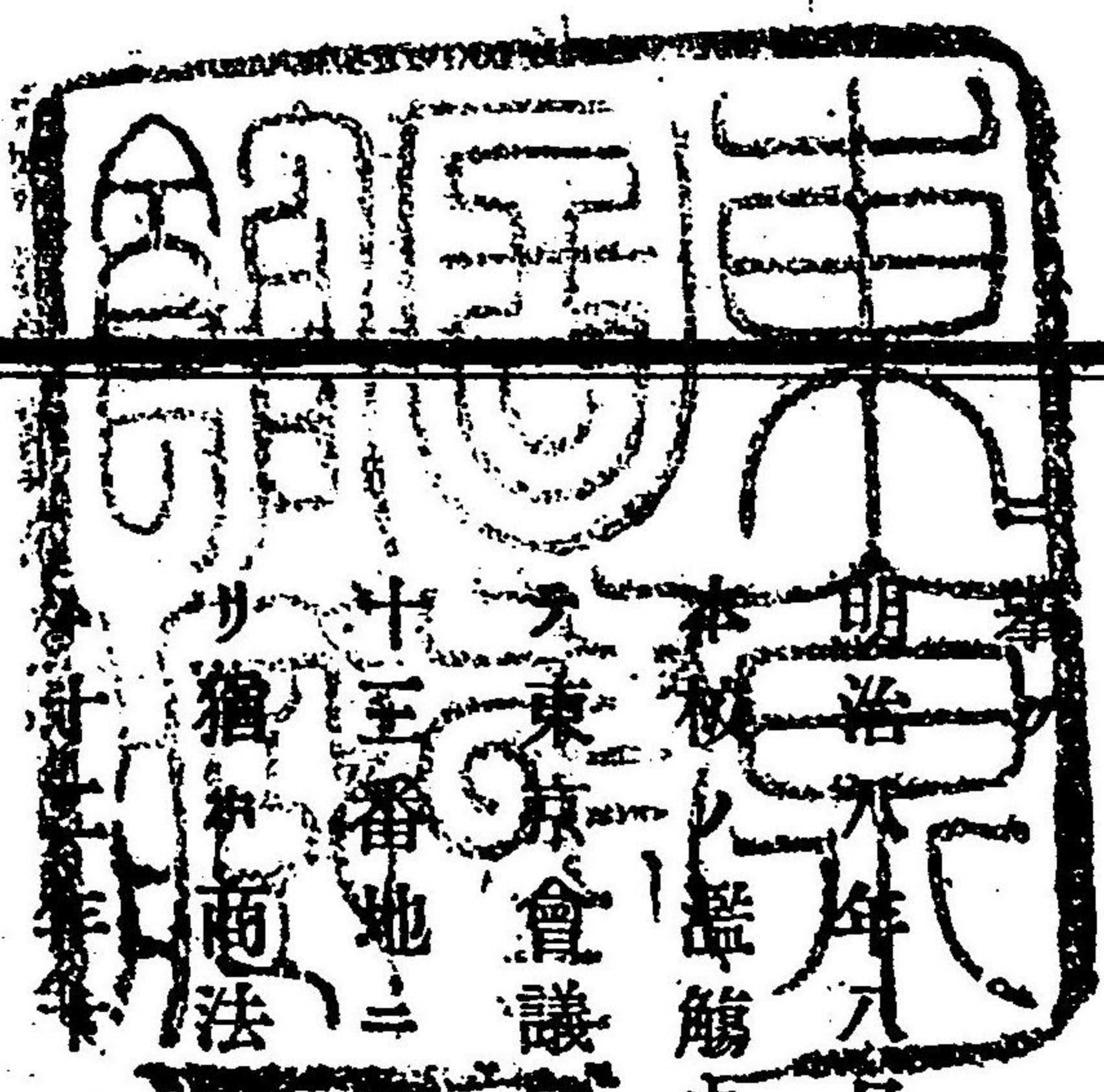
廿

研究規程	三十二丁
授業料規程	全丁
圖書貸付及閱覽規程	三十三丁
學資貸給規程	三十六丁
學生生徒心得	四十丁
寄宿舎規程	四十三丁
附屬主計學校規則	五十丁
授業要領	五十三丁
學生生徒	六十七丁
當校出身者姓名	八十四丁
商品見本陳列場	百三十丁
土地及建物	百卅一丁

高等商業學校一覽

沿革概略

本校ハ明治十八年九月今ノ地ニ開設スト雖モ其之ヲ創立セシハ實ニ明治八年ニ在リ而シテ其間興廢沿革記スヘキ者甚々多シ今其要ヲ摘ミ之ヲ左



明治八年八月森有禮創メテ商法講習所ヲ東京尾張町ニ假設ス是レ則チ本校ノ嚆矢ナリ十一月森有禮清國駐紮ノ命ヲ奉スルヲ以テ校事ヲ擧ケテ東京會議所ニ附ス是ニ於テ爾後其管理ニ屬ス九年五月木挽町十丁目十五番地ニ移リ同月遂ニ府立トナル是ヨリ東京府廳ノ管理スル所トナリ猶ハ商法講習所ト稱シ矢野次郎ヲ以テ所長ニ任ス八月新ニ學則ヲ定メ十一月府廳東京商法會議所議員澁澤榮一、益田孝、福地源一郎、木村利右衛門、清水九兵衛五名ヲ擧ケテ商法講習所委員トナシ規則ヲ撰定セシム十四年七月本校俄ニ廢セラレ蓋シ是年府會ニ於テ本校經費ノ支

沿革概略

出ヲ拒絕セシヲ以テナリ九月府廳農商務省ニ稟請シ其補助ヲ得テ再ヒ之ヲ興シ舊ニ依リ矢野次郎ヲ以テ所長ニ任ス十五年府下有志ノ商賈金ヲ醸シテ本所維持ノ資金ニ充ツ十六年十月矢野次郎職ヲ辭シ東京府御用掛南貞助ヲ所長事務心得ト爲ス十七年三月同所ヲ農商務省ノ直轄官立學校ト爲シ東京商業學校ト改稱シ農商務權少書記官河上謹一校長ヲ兼任ス六月農商務省更ニ第一國立銀行頭取澁澤榮一日本銀行副總裁富田鐵之助三井物産會社長益田孝ニ本校々務商議委員ヲ囑託ス八月河上謹一職ヲ辭シ矢野次郎復ヒ校長ニ任ス十八年五月文部省ノ管轄ニ屬ス是年九月文部省其所轄ノ東京外國語學校及其附屬高等商業學校ト本校トヲ併セテ更ニ東京商業學校ト稱シ舊東京外國語學校跡即チ神田區一橋通町一番地ノ校舍ニ據テ之ヲ開設ス文部省御用掛森有禮本校監督ヲ兼子校長及商議委員共ニ故ノ如シ十九年一月本校教科ヲ分テ高等部普通部語學部ノ三部トナス此月木挽町ナル舊校舍ニ就テ新ニ商工徒弟講習所ヲ開設

シテ本校ノ附屬ナトス該所ハ則チ商工ノ子弟ニ實地近易ノ學術ヲ授クル所ナリ二月高等部語學部ヲ廢ス四月本校職制定リ始メテ教頭幹事ヲ置ク五月大藏省所屬銀行事務講習所ヲ文部省ノ管轄トナシ且之ヲ本校ニ屬ス因テ銀行專修科ト改稱シ舊則ニ從テ專ラ銀行ノ業務ヲ教授ス六月其校舍ノ神田錦町壹丁目ニアル者ヲ本校内ニ移ス七月本校及附屬商工徒弟講習所同銀行專修科ノ規則ヲ改定シ九月之ヲ施行ス其大要本校教科ハ尋常高等ノ二科ニ分チ課程ハ尋常科三年高等科二年通シテ五年ヲ以テ業ヲ卒フル者トス商工徒弟講習所教科ハ職工科、別科、夜學科ノ三科ニ分チ其課程ハ職工科三年別科二年ナリ而シテ夜學科ハ當時未タ之ヲ定メス又銀行專修科ハ其課程ヲ二年ト定ム廿年三月復ヒ本校規則ヲ改正シ次學期ノ始ヨリ之ヲ實施スルトシ尋常科高等科ノ稱ヲ廢シテ豫科本科ヲ置キ其修學年限ハ豫科ヲ一年本科ヲ四年トシ且其程度ヲシテ稍高尚ナラシム六月附屬銀行專修科ヲ主計專修科ト改稱シ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ須要ノ

學術及實務ヲ教授スル所トナシ因テ其教則ヲ定メ九月改定規則ヲ實行ス
十月本校ヲ高等商業學校ト改稱ス廿一年三月本校々長職務規程ヲ定メラ
ル四月研究規則ヲ修正シ其研究年限ヲ二ケ年ト爲ス八月伊太利語ノ一科
ヲ試設ス廿二年三月本校及附屬科ノ規則ヲ改正シ本科ノ修業年限ヲ三年
トナシ附屬主計專修科ヲ主計學校ト改稱ス同月卒業證書授與ノ正式ヲ執
行シ商法講習所創立以來廿一年七月ニ至ル本校卒業生百十八名及銀行事
務講習所引繼以降主計專修科ニ至ル迄ノ卒業生五十五名ニ卒業證書ヲ授
與ス十月附屬商工徒弟講習所別科ヲ分離シテ本校補充科トナス廿三年一
月附屬商工徒弟講習所ヲ職工徒弟講習所トナシ本校ヨリ分離シテ東京職
工學校ニ移ス七月閣議本校々舎ノ改築ヲ決定シ其費用ハ廿二年度ヨリ廿
七年度迄繼續費トシテ支出スルコト、爲シ同年之レカ工事ニ着手ス十月
更ニ本校官制ヲ定メラレ教頭ノ職ヲ廢シ教諭ヲ教授トシ助教諭ヲ助教授
トナシ各其員數ヲ定メラル二十四年七月本校規則ヲ改正シ補充科ヲ廢シ

テ豫科二年本科三年ノ教程トシ學科ヲ増設シ程度ヲ高尙ニス同月附屬主
計學校規則モ亦改正ヲ加ヘ稍其程度ヲ高メタリ八月官制ノ改正アリテ幹
事ノ職ヲ廢ス十二月改正官制ニ據リテ商議委員規程ヲ改定ス廿五年一月
教務委員規程ヲ定メ委員三名ヲ置キ四月本校官制ニ據リ更ニ商議委員七
名ヲ置ク十一月第二回卒業證書授與式ヲ舉ケ明治廿三年以後ノ本科卒業
生百五十六名及廿二年以後ノ附屬主計學校卒業生百二十五名ニ卒業證書
ヲ授與ス

官制及商議委員會規程

本校官制ハ明治廿四年七月勅令第百三十七號ヲ以テ改定セラレ其教官ノ
數ハ同年同月勅令第百四十一號ヲ以テ定メラル則チ左ノ如シ

一 高等商業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

奏任

一人

教授

全

十五人

助教授	判任	二十二名
舍監	奏任	專任二人
書記	判任	十人

二 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

三 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

四 助教授ハ教授ノ職掌ヲ助ク

五 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

六 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

七 學校長ハ校務上ノ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教官ノ外外國教師ヲ雇入レ又ハ俸給豫算定額内ニ於テ講師ヲ囑託シ及雇員ヲ使用スルコトヲ得

八 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

八 高等商業學校ハ商務ヲ處理經營スヘキモノ又ハ商業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

九 高等商業學校ニ附屬主計學校ヲ置ク

附屬主計學校ハ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ關スル必須ノ學科及實務ヲ教授スル所トス

十 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬主計學校主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

商議委員會規程

第一條 文部省直轄諸學校官制第七條ニ依リ高等商業學校ニ商議委員會ヲ置ク

第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

文部省又ハ其所屬高等官 二名

委員會規程

農商務省高等官

二名

商工業ノ經歷アル者

七名以下

第三條 商議委員會ハ學科課程重要ノ諸規則其他學校長ニ於テ必要ト認
ムル事項ヲ審議スルモノトス

第四條 商議委員會ハ文部大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第五條 商議委員會ノ會議ハ學校長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス
但商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案ト爲スコトヲ得

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコ
トヲ得

第七條 商議委員會ノ決議ハ學校長ヨリ文部大臣ニ報告スヘシ

商議委員及職員

商議委員

委員及職員

第一國立銀行頭取

澁澤榮一

東京府知事

富田鐵之助

三井銀行監督

益田 孝

農省務省商工局長

齋藤修一郎

全 特許局長

藤田四郎

法科大學教授法學博士

梅 謙次郎

文部書記官

小山健三

職員

×印アルハ他ヨリ兼務ノ者

校長

矢野次郎

教 員

教授

佛語

教務委員

×今村有隣

全

物理及數學

教務委員

谷田部梅吉

全	商品及化學	石川 巖
全	簿記	×藤尾 錄郎
全	統計	×高橋 二郎
全	外國實踐、商業要項及簿記	原田 貞之介
全	法律	高木 甚平
全	簿記及實踐	×安村 喜當
全	簿記	×木村 匡
全	和作文	杉山 令吉
全	和作文	前橋 孝義
全	囑託講師 商業歷史	×和田 垣謙三
全	經濟	×添田 壽一
全	倫理	岡崎 撫松

職務委員
士

リサンシエー、
アン、シアンズ、
コンメルシアル
ドクトル、
ユーリス

全	法律	×梅 謙次郎
全	英語	×井上 十吉
全	商業要項	松本 安藏
全	博物及商業地理	奈佐 忠行
全	英語	長谷川 方文
全	經濟	×天野 爲之
全	英語	佐藤 顯理
全	英語	佐藤 毅
全	商業要項及實踐	中西 品次郎
全	助教授 和作文	板谷 良作
全	數學	村林 建藏
全		名川 輔三郎

ドクトル、アン、
ドロー、
法律博士

ニヤウ

全	書法	小島 春
全	圖畫	松井 昇
全	商業歴史	横井時冬
全	簿記及實踐	奥村忠三郎
全	體操	西村正立
全	全	長谷川福橘
全	洋行中	鈴木虎之助
全	囑託教員 英語	松崎萬之丞
全	數學	下野直太郎
全	體操	村瀬太郎八
全	全	山浦岩太郎
全	全	草野彌門

雇	實踐助手	平田新太郎
雇外國教師	商業要項、商業地理及實踐	アレキサンドル、ジョゼフ、ヘヤー
全	英語	エドワード、ジョセフ、プロックホイス
囑託	伊、西、獨、語	アレキサンドル、ジョゼフ、ヘヤー
全	英語	エミリオ、ビンダ
全	支那語	ジャバース、ホルムス
全	支那語	張 滋 防

事務員

舍監	學生掛	教授	谷田部梅吉
全	學生掛	全	前橋孝義
書記	庶務掛	助教授	板谷良作
全	會計主務官	兼文部屬	千葉 實
全	學生掛	助教授	名川輔三郎

廿六年一月七日	冬季休業終
全 一月九日	第二學期始
全 一月三十日	休業 孝明天皇祭
全 二月十一日	全 紀元節
全 三月廿日	全 春季皇靈祭
全 三月廿五日	第二學期試業始
全 四月三日	神武天皇祭
全 四月十日	第二學期終
全 四月十一日	第三學期始
全 六月廿四日	第三學期試業始
全 七月十日	第三學期終
全 七月十一日	夏季休業始
全 九月十日	夏季休業終

全 全
每月日曜日

學年終
休業

規則

第一章 總則

第一條 本校ハ主トシテ内外商業ニ關スル高等ノ教育ヲ施シ將來公私ノ商務及會計ヲ處理スヘキ者并ニ商業學校ノ主幹又ハ教員タルヘキ者等ヲ養成スル所トス

第二條 本校修學年限ハ本科ヲ三個年トシ豫科ヲ二個年トス

第三條 本校附屬主計學校ノ規則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二章 學級及學科課程

第四條 本科豫科各一個年ヲ以テ一學級ト定ム其學科及課程ハ別表ノ如

豫科學科課程表

時間合計	體操	英語	博物	化學	物理	圖畫	簿記	數學	作文	書法	倫理	科年限	
												第一	第二
三三	三	一〇	二	二	二	二		五	二	三	一	每第 週時 間期	第 一 年
三三	三	一〇	二	二	二	二		五	二	三	一	每第 週時 間期	第 一 年
三三	三	一〇	二	二	二	二		五	二	三	一	每第 週時 間期	第 一 年
三三	三	一〇	二	二	二	二	三	五	二		一	每第 週時 間期	第 二 年
三三	三	一〇	二	二	二	二	三	五	二		一	每第 週時 間期	第 二 年
三三	三	一〇	二	二	二	二	三	五	二		一	每第 週時 間期	第 二 年

本科學科課程表

時間合計	體操	實踐	支伊獨西佛 語ノ内一語	英語	法律	統計	經濟	商業要項	商業歷史	商業地理	商品	簿記	商用算術	商用作文	科年限	
															科目	年限
三二	三			五	三		三	三		五	二	三	二	二	第一 年	每 週 時 間 期
三二	三			五	三		三	三		五	二	三	二	二		每 週 時 間 期
三二	三			五	三		三	三		五	二	三	二	二		每 週 時 間 期
三二	三	四	三	三	三		三	三	二		二	三	二		第二 年	每 週 時 間 期
三二	三	四	三	三	三		三	三	二		二	三	二			每 週 時 間 期
三二	三	四	三	三	三		三	三	二		二	三	二			每 週 時 間 期
三二	三	六	六	五	三	二	三		三						第三 年	每 週 時 間 期
三二	三	六	六	五	三	二	三		三							每 週 時 間 期
三二	三	六	六	五	三	二	三		三							每 週 時 間 期

- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭
- 一 天長節
- 一 新嘗祭
- 一 孝明天皇祭
- 一 紀元節
- 一 春季皇靈祭
- 一 神武天皇祭
- 一 冬季休業
- 一 夏季休業
- 一 各學期試業後

十一月廿五日
 至一月七日
 九月十一日
 至十月二日
 各一週間

第四章 入學在學退學規程

第九條 入學期ハ每學年ノ始メ一回トス

第十條 府縣立尋常中學校若クハ高等中學校豫科ノ卒業證書ヲ有シ身躰健康品行方正ナル者ハ特ニ書法、作文、算術、英語ノ四科目ニ就キ其學力ヲ查檢シ優等ナル者ハ豫科第一年級へ入學ヲ許スヘシ

第十一條 官公立學校ニシテ普通學ノ程度府縣立尋常中學校ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ前條ニ準ス

第十二條 第十條第十一條ニ掲クル外ノ入學志願者ハ年齡滿十七年以上ニシテ身躰強健品行方正左ノ試験ニ合格スヘキ學力ヲ有スルモノタルヘシ

豫科入學試験課目

- 一 和漢文 訓點、解釋
- 一 書法 楷行草三体
- 一 作文 記私用文、事論說文ノ内

一 數學 算術、代數、幾何(平面、立体)

一 地理 内外國

一 歴史 内外國

一 圖書 自在器畫

一 物理 大意

一 化學 大意

一 博物 大意

一 英語 書取、會話、反譯

一 躰格

第十三條 入學試験ハ凡テ尋常中學校卒業ノ程度ニ依ル

第十四條 各高等中學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ試験ヲ要セス本科第一年級へ入學ヲ許スヘシ
但人員ノ都合ニ依リテハ入學ヲ謝絶スルコトアルヘシ

- 第十五條 入學志願者ハ第一號及第二號ノ書式ニ倣ヒ入學願書並學業履歷書ヲ差出スヘシ
- 第十六條 第十二條ニ據リ入學試験ヲ受クル者ハ金三圓第十條第十一條ニ據リ査檢ヲ受クル者ハ金壹圓五十錢ヲ受験料トシテ願書ニ添ヘ本校ヘ納ムヘシ但一旦受納ノ上ハ之ヲ返付セサルモノトス
- 第十七條 願ニ依リ一旦退學セシ者再ヒ入學ヲ請フトキハ詮議ノ上入學ノ期ニ就テ原級以下ノ級ニ編入スルコトアルヘシ
- 第十八條 入學試験ノ評點ハ試業規則ノ例ニ依ル
- 第十九條 入學許可ノ命ヲ得タル者ハ其當日ヨリ五日以内ニ證人ト同道ニテ第三號書式ノ誓書ヲ本校ヘ持參スヘシ
- 第二十條 正副證人ハ俱ニ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ於テ一家ヲ立テ學生生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ者ニ限ル
- 第二十一條 正副證人死去若クハ東京府外ニ轉住スル事等アルトキハ速ニ

- 之ヲ補缺シ補闕シタル證人ヲシテ證書ヲ出サシムヘシ又正副證人旅行スル事アルトキハ直ニ之カ代理ヲ立テ其旨届出ヘキハ勿論府内ニ轉居シ或ハ改印等ヲナシタルトキモ亦速ニ届出ヘシ
- 第二十二條 入學許可ノ命ヲ得ルト雖若シ第十九條ノ成規ニ違フトキハ如何ナル事情アルモ入學ヲ許可スルコトナシ
- 第二十三條 學生々徒怠惰不品行等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ退學ヲ命スヘシ
- 第二十四條 無届ニテ缺課スルコト引續キ三週日以上ニ及フ時ハ退學ヲ命スヘシ
- 第二十五條 疾病等ノ故ヲ以テ數遲刻闕課スル者又ハ引續キ六十日以上闕課スルトキハ除名スルコトアルヘシ
- 第二十六條 學年ノ成績不合格ナルコト引續キ再度ニ及フトキハ第四十一條ニ依リ除名スヘシ

第廿七條 在學中都合ニ依リ一年志願兵トナリタル者服役終リテ復校セ
ントスルトキハ試験ヲ須井スシテ原級ニ編入スヘシ
第廿八條 學生々徒退校セント欲スルトキハ保證人連署ノ願書ヲ差出ス
ヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙ニツ折一通)

入學願書

私儀御校へ入學志願ニ付何卒御試験ノ上御許可被成下度依テ別紙履
歷書相添此段相願候也

在籍地族籍職業

(某子弟又ハ被後見人)

姓 名 印

年月日

何年何月日生

宿所東京府何郡區町村番地

高等商業學校長氏名殿

第二號書式 (用紙前同斷一通)

學業履歷書

學業

一年月日何地官公私立何學校ニ入り何學科何等級修業或ハ全學科卒業或

ハ何某ニ從ヒ何學何年間受業用書何々

(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫ヲ添フヘシ)

賞罰

一年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ル等

以上

年月日

姓

名

第三號書式 (用紙前同斷一通)

誓書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ始終御規則ヲ遵守シ特ニ

入學、在學、退學規程

在學中ハ專心ニ勉勵シ卒業ニ至ルマテ猥ニ退學等致ス間敷候依テ誓書如此候也

在籍地族籍職業

(某子弟又ハ被後見人)

姓 名印

年月日

何年何月日生

宿所東京府何區郡町村番地

前文某今回入學御許可相成候ニ付テハ在學中御規則堅ク爲相守且本人ニ係ル一切ノ事件ハ拙者共引受可申ハ勿論平素御校御趣旨ノ在所ヲ協賛シ俱ニ督勵可致候依テ保證如此候也

族籍職業

正證人 姓 名印

年月日

宿所前同斷

副證人 姓 名印

宿所前同斷

高等商業學校長氏名殿

前書正證人某丁年以上ニシテ當區郡内ニ於テ一家ヲ立ル者ニ相違無之候也

何 區郡 長 印

前書副證人某以下同文

何 區郡 長 印

第五章 試業、進級、卒業規程

第二十九條 凡ソ試業ハ每學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ其學年中履修ノ課目ニ基キ適宜問題ヲ設ケ其學力ヲ檢定スルモノトス

第三十條 試業ハ口述、筆記、實地ノ三法ヲ適宜使用シ其成績ヲ案檢シテ評點ヲ施スモノトス

第三十一條 試業評點ハ各課目一百點ヲ以テ最高點トシ各課目評點數四十點以上ニシテ諸課目評點平均數六十點以上ヲ及第點トス

試業、進級、卒業規程

但試業ニ闕席シタルトキハ之ニ零點ヲ附ス

第三十二條 病氣又ハ正當ノ理由ヲ以テ一回ノ學期試業ニ闕席シタル者其事情明白ナルトキハ他ノ二回ノ試験評點ヲ合セ二除シテ得タル點數ヨリ其半數ヲ除却シ之ヲ闕席シタル試業ノ評點ト見做シ學年評點ヲ定ムルモノトス

但一學年中試業闕席二回ニ及フ者ハ本文ノ例ヲ須井ス原級ニ止ムヘシ

第三十三條 日課評點平均數ハ每學期間ノ日課評點ノ總和ヲ該學期間一般ニ課シタル日課ノ數ヲ以テ除シテ之ヲ定ム

但教員ノ見込ニ由リ試業ヲ行ヒ其評點ヲ以テ日課評點ト爲スコトヲ得

第三十四條 各課目學期評點ハ各課目ノ試業評點ニ各課目ノ日課評點平均數ヲ和シ二除シテ之ヲ定ム

但日課評點ナキモノハ直ニ試業評點ヲ用フ

第三十五條 實踐科學期評點ハ其試業評點ニ平生演習ノ際該場内ニ掲ケタル規則ニ基キ與ヘタル評點ヲ加ヘ二除シテ之ヲ定ム

第三十六條 各課目學年評點ハ該學年中ノ各課目ノ學期評點ヲ合算シ三除シテ之ヲ定ム

但各課目ノ授業一學期ニ止ルトキハ其學期評點ヲ又二學期ニ終ルトキハ二學期評點ノ和ヲ二除シテ學年評點トス

第三十七條 諸課目通約學年評點ハ各課目學年評點ノ總和ヲ課目ノ數ヲ以テ除シテ之ヲ定ム

但學期試業諸課目通約評點ノ計算法モ亦本條ニ同シ

第三十八條 凡ソ及落ハ學課評點ト行狀評點トヨリ成レル學年評點ニ由リテ之ヲ定ム

第三十九條 行狀點ハ學生々徒行狀ノ良否ヲ表スルモノニシテ其行狀ノ

特ニ賞スヘキモノニハ正點ヲ附シ不良ノ行爲アル者ニハ負點ヲ與フ

第四十條 學年進級點ハ諸課目通約學年評點ニ該學年中ノ行狀點ヲ増減シテ仍六十點以上ヲ合格ト定ム

第四十一條 學年末ニ於テ進級合格ノ點數ヲ得サル者ハ原級ニ止メ再度不合格ナルトキハ除名スヘシ

第四十二條 每學年ノ終ニ於テ試業表ヲ製シ各學生々徒試業ノ成績ヲ其證人ニ報告スヘシ

第四十三條 本科第三年生ニハ最後ノ學期試業マテニ商業ニ關スル事項ニ就キ論文ヲ作ラシムヘシ

第四十四條 最後ノ學年評點ニ於テ合格ノ點數ヲ得タルモノニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

卒業者中本科第一年以後每學年ノ評點ヲ通算シテ各科目六十點以上諸課目平均九十點以上ヲ得タル者ニハ特ニ優等卒業證書ヲ授クルモノト

ス但行狀ニ於テ一旦負點ヲ得タルモノ正點ヲ以テ之ヲ消却シ得サルトキハ本文ノ限ニ在ラス

卒業證書式

優等卒業證書

族 籍 名

本校定ムル所ノ規則ニ依リ全學科ヲ修了シ其成績優等ナリ因テ此證書ヲ授與ス

年 月 日 高等商業學校長 氏 名 印

卒業證書

族 籍 名

本校定ムル所ノ規則ニ依リ全學科ヲ修了セリ因テ此證書ヲ授與ス
年 月 日
高等商業學校長 氏 名印

第六章 研究規程

- 第四十五條 本科卒業生ニシテ仍其所修ノ學科ヲ深ク研究セント欲スル
モノアルトキハ願ニ依リ更ニ二ケ年以内研究生ト爲スコトアルヘシ
- 第四十六條 研究生ハ授業料ヲ徴收セス
- 第四十七條 研究生ハ實務練習ノ爲諸會社銀行等ニ就キ實務ニ從事セシ
ムルコトアルヘシ
- 第四十八條 研究生ハ本校ノ規則ニシテ本章ニ明文ナキモノハ一般學生
生徒ト同シク之ヲ遵守スベシ

第七章 授業料規程

- 第四十九條 授業料ハ一學年豫料金二十圓本科金二十五圓ト定ム
- 第五十條 授業料ハ每學年九月二月ノ二期ニ分チ指定ノ日ニ於テ其半額
ツ、ヲ前納スヘシ
- 第五十一條 前條授業料納メ期日ニ違フモノアルトキハ證人ニ通知シ若
シ通知ノ當日ヨリ二週日以内ニ尙ホ納金セサルトキハ嚴重ニ處分スヘ
シ
- 第五十二條 授業料ハ一旦納メタル後ハ何等ノ場合ト雖之ヲ返付スルコ
トナシ
- 第五十三條 病氣其他ノ事故アリテ久シク關席スルトモ本校ノ學籍ニ在
ル間ハ必授業料ヲ徴收スルモノトス

第八章 圖書貸付及閱覽規程

第一款 貸付

第五十四條 本校ニ於テ定メタル教科用圖書ノ内價格一圓以上ノモノニシテ本校ニ數部ヲ備フルモノハ貸付料ヲ徵收シテ之ヲ學生々徒ニ貸付スヘシ

第五十五條 貸附ノ圖書ハ第三學期試業終了次第直ニ返納セシムヘシ

第五十六條 貸付料ノ額ハ一學年毎ニ該圖書ノ價格ノ百分ノ二十トス

第五十七條 貸付料ハ一學年分前納セシムルモノトス

但學年ノ半途ニ於テ圖書ヲ貸付スルモノ一學年ノ貸付料ハ月割トナサス

第五十八條 既納ノ貸付料ハ何等ノ事故アリト雖之ヲ返付スルコトナシ

第五十九條 圖書ノ貸付ヲ請フモノハ先ツ圖書係ニ就キ書名其他貸付料ノ額ヲ記入シタル納入書ヲ受取り之ニ現金ヲ添ヘテ收入官吏ニ納付シ其領收證書ヲ圖書係ニ示シテ圖書借用證書々式ノ如ク記名捺印シ之ヲ該係ニ差出シテ借受クルモノトス

第六十條 夏季休業中ハ圖書ノ貸付ヲナサス但シ校長ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

本條ニ依リテ貸付シタル圖書ハ其貸付料ヲ徵收セス

本條ニ依リテ貸付シタル圖書ハ其年九月五日マテニ必返納スヘシ

第六十一條 圖書返納ノ期日ニ違フ者ハ爾後圖書ノ貸付ヲ禁止スヘシ

第六十二條 學生々徒一名ニシテ同書ヲ二部以上借受スルコトヲ得ス

第六十三條 貸付ノ圖書ハ之ヲ叮嚀ニ取扱フヘシ漫リニ字句ヲ改竄塗抹シ若クハ句點等ヲ施スヘカラス違フ者ハ相當ノ處分ヲ爲シタル上圖書ノ貸付ヲ禁止スヘシ

第六十四條 貸付ノ圖書ヲ汚損若クハ亡失シタルトキハ相當ノ代本又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

第六十五條 貸付ノ圖書ハ臨時調査スルコトアルヘシ

第二款 閱覽

第六十六條 圖書ノ閲覧ハ必閲覧所ニ於テシ他所ニ携帯スルコトヲ許サ
ス

第六十七條 圖書ヲ閲覧セントスル者ハ閲覧所ニ揭示スル所ノ閲覧心得
ヲ遵守スヘシ

第六十八條 閲覧所ハ休日ノ外毎日之ヲ開ク其期限ハ時々同所ニ揭示ス
ヘシ

第六十九條 圖書ハ凡テ叮嚀ニ翻閱スヘシ若シ字句ヲ改竄塗抹シ又ハ句
點等ヲ施ス者アルトキハ相當ノ處分ヲ爲シタル上閲覧ヲ禁止スヘシ
第七十條 閲覧ノ圖書ヲ汚損若クハ亡失シタルモノアルトキハ相當ノ代
本又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

第九章 學資貸給規程

第七十一條 本校學生々徒並附屬主計學校生徒ノ學力優等品行方正ニシ

テ學資支辨ノ途ナキ者ハ本人ノ願意ト校長ノ認定トニ由リ一個年金百
圓以内ノ學資ヲ貸給スルコトアルヘシ

第七十二條 前條ノ學資ハ有志者ヨリ特ニ寄附シタル金員ト本規程第七
十五條第七十八條第七十九條及第八十條ニ依リ該貸給ヲ受ケタル者若
ハ其保證人ヨリ返納シタル金員トヲ以テ貸給スルモノトス

第七十三條 學資ノ貸給ヲ受ケント欲スルモノハ東京府下ニ於テ相應ノ
資産ヲ有スル者二名ヲ保證人トシテ其貸給ヲ受ル理由ヲ具シタル願書
ヲ本校ニ差出スヘシ

第七十四條 學資ノ貸給ヲ受ケタル者ハ卒業後從事スヘキ業務及俸額等
ニ對シ貸給金額ヲ完償スルマテノ間校長ノ指命ニ從フヘキ義務アルモ
ノトス

第七十五條 學資ノ貸給ヲ受ケタルモノハ卒業後業務ニ就キタル翌月ヨ
リ起算シ貸給ヲ受ケタル月數ニ二倍セル期限内ニ於テ其貸給金額ヲ月

割ヲ以テ之ヲ本校へ返納スルモノトス

第七十六條 學資ノ貸給ヲ受クル者ハ左ノ書式ニ依リ誓約書ヲ差出スヘシ

誓約書

私儀本年何月ヨリ何年何月マテ金何圓學資ノ貸給相受候ニ付テハ御校學資貸給規程ヲ遵守シ決シテ違背不仕候依テ保證人連署誓約如件
年 月 日
高等商業學校何科生

本人 姓 名 印

住所族籍 姓 名 印

保證人 姓 名 印

全 姓 名 印

全 姓 名 印

高等商業學校校長氏名殿

第七十七條 學資ノ貸給ヲ受クル者學業ヲ怠リ又ハ品行不良ニ流レ其他

校長ニ於テ成業ノ見込ナキ者ト認定スルトキハ其貸給ヲ廢止スヘシ

第七十八條 前條ニ依リ貸給ヲ廢止サレ又ハ自分ニ退校スル者ハ既ニ受ル所ノ貸給金額ニ對シ一個年八分ノ利子ヲ付シ一時ニ之ヲ本校へ返納スルモノトス

第七十九條 學資ノ貸給ヲ受クル者修業中疾病ニ罹リ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ其貸給ヲ廢止スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ既ニ受クル所ノ貸給金額ハ第七十五條ノ月割ヲ以テ其翌月ヨリ之ヲ本校へ返納スルモノトス

第八十條 學資ノ貸給ヲ受ケ卒業セシ者校長ノ指命ニ從ヒ業務ニ就キタル後恣ニ其業務ヲ止メタルトキハ其返納スヘキ金額ニ對シ一個年八分ノ利子ヲ付シ一時ニ之ヲ本校へ返納スヘシ

第八十一條 學資ノ貸給ヲ受ケ卒業セシ者業務ニ就キタル後疾病等ノ故ヲ以テ返納金ヲ延滞スルイヲ得ス

學資貸給規程

第八十二條 學資ノ貸給ヲ受ケタル者死亡シタル時ハ其以後之ヲ返納スルニ及ハスト雖モ若シ生前月賦淹滞ノ金額アルキハ保證人ニ於テ之ヲ辨償スルモノトス

第八十三條 第七十五條第七十八條第七十九條及第八十條ノ返納金ヲ本人ニ於テ延滞スルトキハ保證人ヨリ之ヲ返納スルモノトス

第八十四條 保證人死亡又ハ東京府外へ轉居スルカ若クハ其資産ヲ失フトキハ速ニ代人ヲ立テ誓約書ヲ書換フヘシ

第八十五條 官廳會社又ハ一人ヨリ學生々徒ヲ指名シテ之ニ學資貸與ノ支給方ヲ本校ニ依頼スルトキハ之ニ應スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ學生々徒卒業後從事スヘキ業務ノ約束等ハ貸給者ト受貸給者ト直ニ之ヲ取結フヘキモノトス

學生生徒心得

第一條 立身報國ヲ旨トシ忠實ヲ守リ言行ヲ慎ミ人ニ接スルニ温良謙讓ヲ以テシ事ヲ執ルニ謹勉果敏ヲ主トシ平素努メテ真正ノ商業者タルヘキ徳性ト風采トヲ養成スヘシ

長上ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論學生々徒相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ貴フヘシ

居常自ラ重シ苟モ學生々徒タルノ躰面ヲ汚ス如キ行爲アルヘカラス

第二條 常ニ衣食起居ニ注意シ身躰ノ健全ヲ計ルコトヲ怠ルヘカラス

第三條 課業時間前ノ報鐘ニ依リ必各自ノ坐位ニ就キ潜心課業ニ從事スヘシ

第四條 放課ノ時間中タリトモ靜肅ヲ旨トシ苟モ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第五條 校内ニ於テ猥ニ喫烟シ或ハ啐唾シ又ハ食堂外ニ於テ飲食スル等ノコトアルヘカラス

第六條 帽子外套其他ノ携帶品ハ必所定ノ場中ニ整置シ無用ノ物品ハ一切携帶シテ上校スヘカラス

第七條 上校ノ節ハ必制服制帽ヲ着用スヘシ若シ痛所等アリテ和服ヲ着用スルトキハ其旨ヲ學生係ニ届出ツヘシ

第八條 課業時間中疾病又ハ正當ノ理由ヲ以テ闕課セントスルトキハ必受持教員又ハ學生係ノ差圖ヲ受クヘシ

第九條 通學生病氣又ハ正當ノ理由ヲ以テ闕課スルトキハ必其當日ヨリ七日以内ニ其日限及事由ヲ記シタル證人ノ届書ヲ出スヘシ其病氣七日以上ニ及フトキハ必之ニ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第十條 通學生宿所ヲ轉シタルトキハ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十一條 通學生ハ舍生係ノ許可ナクシテ猥ニ寄宿舎内ニ入ルヘカラス

第十二條 事ノ何タルヲ問ハス意見アルトキハ校長又ハ他ノ主任者ニ向ヒ獨自ラ之ヲ陳言スヘシ又何等ノ目的ヲ問ハス校長ノ許可ヲ得ルニ非

サレハ猥ニ校内ニ於テ會合スヘカラス

第十三條 凡ソ告示ハ之ヲ掲タルノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムルヲ以テ常ニ能ク之ニ注意スヘシ

第十四條 校物ノ取扱ハ專ラ鄭重ヲ旨トスヘシ若シ汚損又ハ亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ學生係へ申出テ處置ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ方リ若シ其本人知レサルトキハ一室内又ハ全般ノ者ヲシテ俱ニ其責ニ任セシムルコトアルヘシ

第十五條 長上ノ命令訓誡ニ從ハス若クハ諸規程ニ悖戾スル者ハ各其情狀ニ照シ處罰ヲ加フヘシ

寄宿舎規程

第一條 寄宿舎ニ於テハ學生々徒ヲ紀律節制ノ下ニ監督シ教場内ノ訓誡ト相俟テ他日服務整肅ノ慣性ヲ育成スルヲ目的トス

第二條 舍生ハ一般ニ此舍則ヲ遵守シ舍生係ノ諭示ニ背クヘカラス
 第三條 舍生若シ舍内ノ風紀ヲ紊ル如キ行爲アリト認ムルトキハ直ニ退舍ヲ命スヘシ

第四條 屢歸舍ノ時刻ニ遅レ又ハ舍外ニ宿泊等ヲ爲ス者ハ退舍セシムヘシ

第五條 寄宿舍ハ冬夏休業中閉鎖スルヲ以テ例トス但冬季ニ限り舍生ノ望ト學校ノ都合トニ由リ留舍ヲ許スコトアルヘシ

第六條 入舍ヲ望ムモノハ先ツ左式ノ願書ヲ出シ許可ヲ受クヘシ
入舍願 (美濃紙一通)

私儀入舍致度候條何卒御許可被成下度然ル上ハ舍則ヲ確守シ聊懈怠仕間敷候依テ証人連署此段相願候也

年月日
 何科何年生
 姓 名 印

正証人 姓 名 印
 副証人 姓 名 印

高等商業學校校長氏名殿

第七條 晨起ヨリ就寢ニ至ルマテノ時間ヲ分テ正課時間、隨意時間、温習時間トス但其时限ハ時々之ヲ告示スヘシ

第八條 舍内ハ殊ニ規律秩序清潔ノ三者ヲ保有スルヲ要ス故ニ舍生ハ居常學生々徒心得ノ條項ヲ恪守スルハ勿論仍ホ舍内ニ在テハ殊ニ左ノ事項ヲ服膺セサルヘカラス

第一 言行動作ヲ慎ミ友愛親和ヲ專トシ且攝生ニ注意スヘシ

第二 晨起、就寢、喫飯、入浴及外出、歸舍等所定ノ成規及時限ヲ確守スヘシ

第三 室内ハ清潔ヲ旨トシ居常掃除及器物ノ整頓ニ注意シ且每週一回舍生係ノ指揮ニ從ヒ各室ノ大掃除ヲ爲スヘシ又各自沐浴洗

- 濯等ニ至ルマテ毫モ怠ルヘカラス
- 第四 温習時間ハ勿論授業放課ノ節ハ必温習室ニ於テ勉學スヘシ
- 第五 毎日晨起定時後一時間就寢定時前二十分以内ニ各自ノ室内ニ於テ舍生係ノ檢閲ヲ受クヘシ但朝間檢閲ノ際ニハ必制服ヲ着クヘシ
- 第六 圖書什器其他ノ所有物ハ何時タリトモ舍生係ノ命ニ應シ其檢閲ニ供スヘシ且必要ノ場合ニハ本人ニ拘ラス舍生係ニ於テ舍生ノ所有物ヲ點檢スルコトアルヘシ
- 第七 卑猥無用ノ物品ハ一切所持スヘカラス
- 第八 猥ニ他室ニ出入シ或ハ冗談雜話ニ時ヲ費シ或ハ金錢衣服等ヲ貸借スヘカラス
- 第九 舍生係ノ許可ナクシテ漫ニ寢室ニ入ルヘカラス
- 第十 就寢後ハ靜肅ヲ主トシ又其室内ニ燈火ヲ點シ火具ノ類ヲ一切

入ルコトヲ禁ス

- 第十一 舍生係ノ查證ナクシテ物品ヲ門外ニ出スヘカラス
- 第十二 來訪者アルトキハ必面謁所ニ於テ應接スヘシ但疾病者ハ舍生係ノ許可ヲ承ケ病室ニ於テ應接スルコトヲ得
- 第十三 私ニ小使ヲ使役スヘカラス
- 第九條 外出下宿又ハ歸郷スル者ハ左ノ件々ヲ遵守スヘシ
 - 第一 隨意時間ハ外出又ハ遊戯室ニ入ルコト勝手タルヘシ
 - 第二 外出ノ節ハ必出門標ヲ携ヘ出入スヘシ
 - 第三 外出歸舍俱ニ必制服制帽ヲ着用スヘシ若痛所等ニテ舍生係ノ許可ヲ得タルモノハ和服ヲ着クルモ妨ケナシト雖制帽ハ必着クヘキモノトス
 - 第四 病氣ニテ闕課スル者ハ外出スヘカラス但醫師ノ診斷ニ由リ外出ヲ要スルモノハ此限ニ在ラス

- 第五 外出中急病又ハ事故アリテ定刻ニ遅レテ歸舍スルモノハ同時ニ其事由ヲ記シタル届書ヲ舍生係ニ差出スヘシ
- 第六 隨意時間外ニ外出ヲ要スルトキハ其事由ヲ記シタル書面ヲ出シ舍生係ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七 非常異變ノ外揭示ノ門限後ハ一切出入スヘカラス
- 第八 疾病又ハ事故アリテ下宿歸郷或ハ退舍セサルヲ得サルトキハ其事由ヲ記載シタル證人ノ願書(下宿或ハ歸郷ノ地名及日限等ヲ詳記シタル)ヲ舍生係ニ差出スヘシ但冬夏休業中下宿又ハ歸郷スルモノハ豫メ其所在地ヲ届出ツヘシ
- 第九 病氣或ハ事故アリテ下宿歸郷スル者日數三十日ヲ經テ仍ホ歸舍セサルトキハ一旦舍生籍ヲ除クヘシ
- 第十 下宿中事故アリテ舍内ニ入ルヲ要スルトキハ舍生係ノ許可ヲ受クヘシ

- 第十一 下宿或ハ歸郷セシモノ期日ニ遅クレ歸舍スルトキハ更ニ證人ノ證書ヲ舍生係ニ差出スヘシ
- 第十二 冬夏休業中下宿歸郷セシモノハ始業前三日間ニ歸舍スヘシ
- 第十條 疾病ニ罹リシ者ハ左ノ件々ヲ遵守スヘシ
 - 第一 凡ソ疾病ニテ下宿或ハ歸宅ヲ願フモノハ必本校醫員ノ診斷ヲ要スヘシ急病ノトキハ他醫ノ診斷ヲ受クルコトヲ得
 - 第二 疾病ニテ闕課スルトキハ課業時間前必其旨ヲ舍生係ニ届出テ且本校醫員ノ診察ヲ受クヘシ
 - 第三 病氣ノ者ハ舍生係ノ許可ヲ得テ寢室又ハ病室ニ於テ攝生スルコトヲ得ルト雖病症ニ依リテハ臨機下宿セシムルコトアルヘシ
- 第十一條 舍生ノ賄料ハ其月未指定ノ日ニ於テ舍生係立會ノ上拂渡サシムヘシ

附屬主計學校規則

- 第一條 主計學校ハ専ラ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ關スル必須ノ學術及實務ヲ教授スル所トス
- 第二條 學科及其課程別表ノ如シ
- 第三條 修業年限ハ二箇年トシ之ヲ二學級ニ分チ一學年ニ一學級ヲ修メシム
- 第四條 入學ハ每學年ノ始ニ於テ之ヲ許ス
- 第五條 府縣立尋常中學校若ハ高等中學校豫科ノ卒業證書ヲ有シ身軀健康品行方正ナル者ハ特ニ書法作文算術英語ノ四科目ニ就キ其學力ヲ查檢シ優等ナル者ハ第一年級ヘ入學ヲ許スベシ
- 第六條 官公立學校ニシテ普通學ノ程度府縣立尋常中學校ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ前條ニ準ス

第七條 前二ヶ條ニ掲クル外ノ入學志願者ハ年齡滿十七年以上ニシテ身軀健康品行方正且左ノ試驗ニ合格スヘキ學力ヲ有スルモノタルヘシ

試驗科目

- 一 書法楷行草三跡
- 一 和漢文訓點、解譯
- 一 作文論說文ノ内及私用文ノ内及記事
- 一 數學算術、代數、幾何(平面、立跡)三角術初步
- 一 地理内外國
- 一 歷史内外國
- 一 圖畫自在畫、用器畫
- 一 物理大意
- 一 化學大意
- 一 博物大意

一 英語 筆取、會話
反譯

一 躰格

第八條 入學試験ハ凡テ尋常中學校卒業ノ程度ニ依ル

第九條 入學試験ヲ受クル者ハ受験料トシテ金二圓ヲ願書ニ添ヘ本校ヘ納ムヘシ

但第五條第六條ニ據リ査檢ヲ受クル者ハ其受験料本文ノ半額トス

第十條 授業料ハ一學年金二十圓ト定メ之ヲ九月二月ノ二期ニ分チ指定ノ日ニ於テ其半額ツ、ヲ前納セシムルモノトス

第十一條 學年、學期、休業、入學、在學退學、試業、卒業、圖書貸付、閱覽、學資貸給、授業料等ノ諸規程及學生々徒心得等ノ諸條項ニシテ本規則ニ特定ノ明文ナキモノハ高等商業學校ノ規則ニ準據ス

主計學校學科課程表

時間合計	體操	實踐	英語	年限	
				第一	第二
三三	三		六	第一	年
三三	三		六	第一	年
三三	三		六	第一	年
三三	三	六	六	第二	年
三三	三	六	六	第二	年
三三	三	六	六	第二	年

主計學校學科課程表

時間合計	體操	實踐	英語	法律	經濟	商事要項	商業地理	簿記	算術	作文	書法	倫理	科年限	
													第一	第二
三三	三		六		三	三	二	五	四	二	三	一	每第 週一 時間 期	第 一 年
三三	三		六		三	三	二	五	四	二	三	一	每第 週二 時間 期	第 一 年
三三	三		六		三	三	二	五	四	二	三	一	每第 週三 時間 期	第 一 年
三三	三	六	六	三	三			五	三	二		一	每第 週一 時間 期	第 二 年
三三	三	六	六	三	三			五	三	二		一	每第 週二 時間 期	第 二 年
三三	三	六	六	三	三			五	三	二		一	每第 週三 時間 期	第 二 年

授業要領

授業要領ハ本校教育ノ主旨ニ循ヒ各學科ノ目的細目并ニ之ヲ授クル順序方法ノ概要ヲ示スモノトス

但學科ニ由リテ通例其目的細目ノ明瞭ナルモノハ必シモ之ヲ掲擧スルヲセズ直ニ授業ノ順序方法ヲ記述スベシ

一書法 (豫科第一年每週三時間)

先ツ楷書ノ筆法運筆ノ順序間架結構ノ法ヲ口授手導シ漸次行草細字ノ結體位置等ヲ習ハシメ又時々速寫書取等ヲ課シ筆力ヲシテ遒勁快疾ナラシムルコトヲカム且習字ハ最モ習練スルニアラサレハ其達筆ヲ望ミ難キガ故ニ特ニ正課外ニ於テ自習セシメ以テ其淨書ヲ徵シ又ハ各自ノ作文ノ既ニ添削ヲ經タルモノヲ時々淨書セシメ是等ニ批評ヲ附スル等ノ手段ヲ以テ益其技ノ研精ヲカメシム

一作文 (豫科第一年第二年每週二時間)

豫科ノ作文ニ於テハ往復文、紀事文、論說文等ヲ作ラシメ旁ヲ修辭作文ノ諸法ヲ講說シテ實習上ノ便ニ供シ專ラ筆力ノ養成發達ヲ計ルト同時ニ實用ノ諸文ヲ授ク

一 數學 (豫科第一年第二年每週五時間)

數學ノ授業ハ之ヲ分テ算術、代數、幾何、三角法ノ六科トナス中ニ就テ算術、幾何、代數、三角法ニ於テハ中學教育未タ盡サ、ル所ヲ補ヒ特ニ筆算ニ於テハ諸計算ノ捷法、省畧法、尋テ求積算、プロバビリチー等ヲ曲說シ、算術、代數ニ於テハ專ラ加減乘除ノ速算ヲ主トシ計算ヲ迅速ナラシムルヲ務ム

一 簿記 (豫科第二年本科第一、第二年每週三時間)

先ツ貸借ノ定義、普通帳簿ノ記入法ヲ講說シ漸次進テ複雜ナル取引ノ例題ニ依リ貸借及諸勘定ノ變化ヲ充分ニ會得セシメ尋テ銀行諸帳簿ノ記入取扱方ヲ教ヘ更ニ官廳會計ノ順序ヨリ其帳簿ノ記入法及決算整理ノ

方法ニ至ラシム而シテ簿記ヲ教フルヤ凡テ其記入ノ順序ニ注意シ文字及數字ハ其書牀ト敷置トヨ明瞭ニスルコトヲ主トシ又和文記帳ノ熟スルニ隨ヒ英文記帳ニ及ハシメ又學生ヲシテ公私ノ各種帳簿ヲ檢査シ或ハ各種事業ニ適用スヘキ諸帳簿ヲ編査シ又其會計事務取扱ノ順序方法ヲ立案セシムル等其己ニ學ヒ得タル知識ヲ以テ自由ニ自己ノ考案ヲ實地ニ應用スルノ技能ヲ鍛練セシム

一 圖畫 (豫科第一年第二年每週二時間)

圖畫ヲ分テ用器畫、自在畫トナス用器畫ニ於テハ投影畫法ヲ授ケテ製圖ノ一斑ヲ學ハシメ自ラ圖ヲ製シテ實物ヲ表示シ或ハ一見圖面ニ據リ其割合結構等ヲ了知セシメ又透視畫法ヲ授ケテ諸物ノ形狀其位置ニ依リ變化スルノ情ヲ寫出スル法ヲ教ヘ或ハ之ヲ應用シテ容易ニ實物ヲ摸寫スル力ヲ養成ス自在畫ニ於テハ墨畫、彩畫ノ二種ニ分チ鉛筆及水繪具等ヲ用ヒテ臨畫及寫生ヲナサシメ諸物ヲ描寫スルノ力ヲ養ヒ更ニ前課兩

書法ヲ應用シテ美術工藝ニ關スル意匠ヲ練習セシメ以テ自ラ圖案ヲ草
シ并テ工藝品ノ巧拙ヲ判別シ得ルノ力ヲ養成スルモノトス

一物理 (豫科第一年第二年每週二時間)

物理學ノ授業ニ於テハ諸力、音響、熱、光、磁氣、電氣ノ各部氣象學ノ要領及ヒ
諸器械等ニ就テ中學教育ノ未タ盡サ、ル所ヲ補ヒ且商工業上ニ關スル
應用ヲ細説スルモノトス

一化學 (豫科第一年第二年每週二時間)

化學ハ始メニ空氣并ニ水ノ性質ヲ説キ又其成分ナル酸素、窒素并ニ水素
ノ性質製法等ヲ論シ次テ其他ノ要用ナル元素即鹽素、沃素、臭素、硫黃、磷等
ヲ詳論シ此間例ヲ引キ專ラ化學變化ノ性質ト其原理トヲ説明シ金屬ニ
至リテハ專ラ金屬體若クハ其化合物トシテ工業上必要ナル所ヲ指示ス
有機化學ニ至リテハ其大意ヲ講義スルニ止ム

一博物學 (豫科第一年第二年每週二時間)

博物學ハ之ヲ動、植、礦、及地質ノ四科ニ分チ始ニ各科ニ就キ中學教育ノ盡
サ、ル所ヲ補ヒ特ニ本科ニ於ケル商品科、商業地理等ト脈絡ヲ通スルコ
トヲ力ムヘキモノトス即チ動植物學ニ在テハ食料及製造品ノ原料タル
ヘキ動植物、礦物學ニ在テハ寶石、寶石、鑽石、其他製造品ノ原料タルヘキ礦
物類、地質學ニ在テハ商業及土木上ノ關係石材其他製造品ノ原料タルヘ
キ岩土類等ノ性質鑑別法及產地等ニ就テナルヘク詳細ノ説明ヲナスモ
ノトス

一英語 (豫科第一年第二年每週十時間本科第一年每週五時間第二年同三
時間第三年同五時間)

英語ハ之ヲ左ノ四科ニ分ツ

(1) 習字ニ於テハ運筆ヲ熟練自在ナラシムルカ爲メ諸證書式書牘式等ヲ
授ケ之ヲ練習セシメ兼テ書取ヲ課シ專ラ綴字ニ熟シ筆記ニ慣レシム
ルヲ力ム

(2) 讀書ニ於テハ字音、音調、句讀等ヲ正シ明瞭ニ誦讀セシメ文辭ノ意義ヲ講明スルト共ニ文法修辭ノ諸法ヲ解説シ且邦語或ハ英語ヲ以テ文章ヲ解釋セシメ專ラ理解力ヲ養ヒ兼テ文章ノ趣味ヲ領得セシム

(3) 會話ニ於テハ日常必須ノ談話就中商業ニ係ル諸般ノ事項ヲ問答談話セシメ商業上慣用ノ言語ハ具ニ之ヲ教ヘ以テ實用ニ導キ專ラ言舌ニ慣レ辨論ニ熟スルヲカメシム但此際ニハ其音調、語勢、態度等ニ就キ教師最モ注意シテ之ヲ匡正スヘシ

(4) 作文翻譯ハ交互ニ之ヲ課シ日用往復文、紀事文、就中商業ニ關スル通信紀事、報告又ハ契約ニ係ル諸文案及論說文等或ハ題ヲ課シテ之ヲ作ラシメ或ハ和英文ニ據リテ相互對譯セシメ以テ文才ノ發達ヲカム

一 商用作文 (本科第一年每週二時間)

商用作文ニ於テハ各種ノ商用作文、公用文、證券文、契約文、報告文其他商業若クハ經濟ニ關スル紀事論說等ヲ課シ又商工業ニ係ル事項ノ大要ヲ口授

シテ之ヲ文ニ作ラシメ偏ニ實務ニ當リテ文筆自在ナラシメンコトヲ目的トス

一 商業算術 (本科第一年第二年每週三時間)

商業算術ニ於テハ商業上實地ノ諸計算法ヲ授クルヲ以テ主眼トス故ニ先ツ各種保險、放銀算用、會社決算、外國爲換、外國貿易、銀行等ニ關スル特種複雜ナル例ヲ課シ旁ラ各國貨幣度量衡海關稅率其他商業上計算ニ關スル習慣ヲ授ケ通曉セシムルコトヲカム

一 商品 (本科第一年第二年每週二時間)

總論ニ於テ地形氣候ト物產トノ關係ヲ説キ次テ鑛業製品ニ於テハ鐵、銅、亞鉛、錫、金、銀、石炭、硫黃、石油等、窯術製品ニ於テハ陶器、七寶、煉瓦、セメント、等、地產物ニ於テハ穀類、澱粉質物、綿、繭、藍、茶、麻等、水產物ニ於テハ輸出ニ關係アルモノ并ニ肥料、工業製品ニ於テハ漆器、蠟、油、釀造製品、織緯製品等ノ重要商品ヲ舉ケ順次其性質、產地、製法、產額、用途、需要等、專ラ標本ニ就キ之ヲ

講明ス

一 商業地理 (本科第一年每週五時間)

内外國各別ニ教ユルヲ以テ授業ノ方法自ラ異ナル所ナキニア、ラサレトモ其概要ヲ舉クレハ始ニ地勢氣候交通ノ便否ヲ示シ進テ各地ニ於ケル農産水産鑛産林産製造物等ノ種類産額輸入及輸出額ノ比較運輸ノ方法購路販路即チ集散ノ景況等ヲ述ヘ貨物ノ流動ヲ示シ地勢ト關係スル狀態ヲ説キ商業ノ區域ヲ知ラシム就中商業已ニ繁盛ナル所或ハ將來繁盛ノ望アル地ニ關スル者ハ特ニ之ヲ示授スル者トス

一 商業歴史 (本科第二年每週二時間第三年同三時間)

商業歴史モ亦内外國各別ニ之ヲ授ク而シテ内國ニ在テハ太古ヨリ江戸幕府ノ終ニ至ル迄凡ソ五期ニ分チ商業起源内地商業外國貿易貨幣度量權衡金融事情内地交通航海業水陸産物鑛山諸工業ノ沿革盛衰商業地ノ變遷等及是等ノ原因ヲ講述シ又外國ニ在テハ凡ソ太古中古近世ノ三段

ニ區分シ各國古今商業上ノ大勢ヲ講述スルモノトス

一 商業要項 (本科第一年第二年每週三時間)

先ツ商業汎論商業ト農工業トノ關係商業學ノ範圍各種商業資本ノ放下方法及事務商業會議所取引所各種銀行各種保險會社ノ組織其他商業家教育ノ方法等ヨリ商業諸般ノ慣習及心得本邦商業社會ノ現況諸外國諸屬地ニ於ケル現況彼我ノ對照重要ナル商品ノ轉徙集散ノ手續及販路ノ實況内外國ニ於ケル商業取引ノ慣習手順取引上必要ナル用具各商品ノ度量衡上ノ慣例荷包ノ常習其他商業ノ掛ケ引商業者ノ舉動及志操ニ關スル心得等ニ至ルマテ實業經理ノ大要ヲ授ケ又運輸ノ方法鐵道管理法及建設法ノ大意并ニ運輸營業ノ方法各種ノ統計船舶ノ構造及艤裝荷物積載方ノ慣行等其他ノ事項ニ就キ其要領ヲ舉ケテ之ヲ講説ス

一 經濟 (本科第一年第二年第三年每週三時間)

本科ハ主トシテ商業經濟ヲ授クルヲ以テ目的トナシ先ツ經濟學ノ定義

授業要領

買、競賣、取引所、及貿易、回漕、鐵道、各種保險、諸會社、銀行、稅關、又ハ製造所其他各種市場等ニ於テ實業者ノ現行スル所ニ則リ資本放下ノ方法營業ノ順序、取引ノ方法、帳簿ノ編製、整頓、方營業上ノ諸通信、証書類發受及取扱方ヲ口演指教シ又實物ニ照シ貨物荷包ノ方法及度量衡ノ使用方等ヲ授ク各學生ガ是等業務ノ要領ヲ知悉スルニ及ヒ實習トシテ實踐場内ニ内外ノ要市要港ヲ假設シ學生ヲシテ各地ニ各種ノ商店、商社ヲ組織スルニ擬セシメ通貨商品ハ模型又ハ紙札ヲ以テ之ニ象リ、汽船鐵道ハ假具ヲ備ヘ實地ノ營業取引法ニ模倣シ學生ヲシテ帳簿ヲ活用管理シ又ハ書信諸手形諸證書現金類ヲ運用出納シ或ハ貨物ヲ授受賣買シ或ハ機變ニ乘シ商務ヲ處理スル等ノ事ニ當ラシメ都テ通信、證書類ノ發受整理、保存方、通信符號ノ適用方等ハ悉ク之ヲ實踐セシメ其間商業上ニ必要ナル秩序、精密敏捷、信用ノ四德ヲ涵養シテ其殊性、習慣ヲ具有セシムルコトヲ力ム商業及通信ニ關スル内外諸法令規則ヲ首メ一般ノ商況相場ノ動靜變化

等ハ主トシテ内外各種ノ書籍新聞、雜誌、諸物價表、商況報告書等ニ據リテ之ヲ示シ時トシテハ特ニ場内ニ限り便宜商況、相場、法規、或ハ恐慌、異變、訛傳、企業若クハ種々ノ詭案方策ヲ假設構出シ學生ヲシテ審テ其業ヲ經營シ其務ヲ規畫スルコトニ慣レ旁ヲ變通應用ノ才ヲ長シ注意戒慎ノ念ヲ惹起シ能ク商務ノ活機ニ應スルノ素ヲ養ハシム而シテ又各學生ハ教師ノ指示ニ由リ輪番ニ各業務ニ就キ或ハ各種ノ商人ト爲リ或ハ銀行、保險、運漕業ノ管理人若ハ代理人ト爲リ或ハ手代ト爲リ支配人ト爲リ頭取ト爲リ更ニ主簿者ト爲リ書記ト爲リ計算方トナリ或ハ出テ支店ノ業務ヲ司リ或ハ入テ本社ノ業務ヲ担当スル等ノ事ヲ交々實習ス其他時トシテ民事原告若ハ被告ノ地位ニ立チ或ハ商業上紛議ノ仲裁人若ハ檢査役ト爲リタル場合ヲ假定シ以テ各種各様ノ事務ヲ担任料理ス又時トシテハ各商業學校ノ間ニ氣脈連絡ヲ通シ通信ヲ開キ此校學生ヨリ彼校ノ學生ニ對シテ貨物ノ積出ヲナシ若ハ手形ヲ振出シ送金ヲ爲シ或ハ廣ク取引

ノ約定ヲ爲ス等ノ事ニ擬シ學生ヲシテ方法ノ善惡當否ヲ試ミ商機ヲ發明スルノ便ヲ得セシム

以上ノ演習ヲ終リタル後教師ハ學生ヲ率ヒテ諸商店諸會社銀行取引所製造所及各種ノ市場稅關等ニ到リ賣買取引ノ模様業務處理ノ方法手續等ヲ熟覽查察セシメ或ハ時々老練ナル當業者ヲ延テ其向々ノ業務ニ關スル諸般ノ手續心得等經驗上ノ談話ヲ請ヒ以テ學生ヲシテ異日各自ノ業務ニ就クノ際十分ニ實務ニ通曉シ毫末モ遺憾ヲ感スルコトナカラシメンコトヲ期ス

一體操 (豫科及本科每週三時間)

專ラ兵式ヲ用ヒ先ツ柔軟及器械躰操ヲ課シ漸次各個教練小隊教練中隊教練ノ一部及射擊ノ術ヲ教授ス凡ソ躰操演習ハ身躰育練ノ至要ニシテ腕力ヲ發育シ健康ヲ保全シ躰中各機關ノ凝硬ヲ解和シ成育ノ不整ヲ矯メ正格ノ姿勢ヲ得セシメ身躰ヲ輕捷ニシテ活潑勇敢ノ志氣ヲ養成スル

コトヲ目的トス

學生々徒 (廿五年十二月調)

學生々徒現員ハ本科第三年生三十八人同第二年生五十六人同第一年生八十一人豫科第二年生七十六人同第一年生七十一人研究生八人附屬主計學校第二年生三十三人同第一年生三十九人合計四百二人ニシテ其級別及族籍姓名左ノ如シ

本科第參年生

鄉 隆 三 郎	千 民 榮	加 地 利 夫	山 民 形
青 柳 龍 五 郎	山 民 形	關 孝 助	新 民 編
武 村 貞 一 郎	東 民 京	御 酒 本 德 松	三 民 重
近 松 文 三 郎	滋 民 賀	山 形 安 次 郎	滋 民 賀

學生々徒

六十七

青山	丸山	大井	百田	鹿野	星野	西園寺	杉本	山口	木村	原	關	鶴
孝太郎	藏三郎	益吉郎	禮五郎	清次郎	太郎	龜太郎	源吉郎	彦太郎	村勝	文次郎	一	一
士愛族知	平新瀨	平神奈川	平東民京	平山民形	士靜族岡	士愛族媛	平福民井	平山民形	平茨民城	士東族京	士東族京	士福族島

井上	松本	下河内	佐藤	古見	關	矢野	桑田	太田	樺山	安倍	柿崎	垂塚
金次郎	武雄	十二造	鞠也	眞熊	信造	義弓	鶴吉	保一郎	純一	一太	精一	次郎
平東民京	士東族京	平廣民島	平東民京	士山族口	士山族形	士橋族木	平橋民玉	平兵民庫	士鹿兒島	平熊民本	士山族形	平橋民玉

本科第貳年生

石	小	福	芹	坂	赤	小	北	伊	信	田
腸	城	田	澤	田	羽	平	村	藤	夫	島
心	謙	德	伊	重	克	道	久	純	淳	道
太郎	次郎	三	作	次郎	巳	三郎	義	太郎	平	丸
士東族京	士佐族賀	平東民京	平靜民岡	平島民根	士青族森	平長民野	平新瀨	平東民京	平東民京	平群民馬

境	森	八十	齋	山	津	平	岡	雨	川	東
竹	泰	島	藤	田	田	尾	山	宮	添	條
次郎	次郎	親	長	馬	弘	德	孝	金	清	卯
郎	郎	德	八	次郎	視	太	太郎	護	啓	次郎
平福民井	平長民崎	士愛族媛	平神奈川	士和歌山	士岡族山	平靜民岡	平千民葉	士滋族賀	平高民知	士德族島

柴崎雪次郎	白井柝太郎	久保井銚之助	荒野精次郎	岡田禎三	高木信太郎	渡邊久太郎	金子猪太郎	生野惠太郎	北條鈔次郎	木村知四郎	品川健吉	儀誠一郎
平崎民玉	平新瀨民	平靜民岡	平茨民城	平培民玉	平千民業	平石民川	平富民山	平山民口	平京民都	平三民重	平長民崎	平茨民城
山川駐七郎	長野惠太郎	松下鍾次郎	市村盤作	杉山太助	林正胤	西原策重	宮岡武吉	田村啓三郎	高坂乾之助	河田右一	久保繁樹	園田近一
平東民京	平東民京	平岐民阜	平群民馬	平東民京	平東民京	平靜民岡	平東民京	平兵民庫	平山民口	平山民口	平東民京	平熊民本

大塚太平治	山内作左衛門	松山増男	大瀧岩次郎	古谷辨三	大津清太郎	永野耕造	檜原榮太郎	田島市太郎	廣田虎太郎	南嘉市	田中次郎	楠目成俊	小林海和介	七海兵吉	和田耕平	日向利三郎
平岡民山	平東民京	平愛民知	平山民形	平愛民媛	平石民川	平福民島	平岐民阜	平東民京	平宮民城	平滋民賀	平福民岡	平高民知	平廣民島	平福民島	平島民根	平大民坂
本科第壹年生																
佐野善作	相澤坦	泉勉三郎	浮田卿次	堀内明三郎												
平靜民岡	平千民菓	平大民坂	平熊民本	平長民野												

伊東祐二郎	大島隆夫	太田文一	關德雄	鎧谷一郎	杉田六藏	松澤藤三郎	梶浦豐吉	鳴海重要	白杉次郎太郎	安場禎次郎	牧野元次郎	深野志磨
平三民重	士山族口	士東族京	士東族京	平山民形	平東民京	平埼民玉	士岐族阜	士青族森	士熊族本	平大民坂	士千族葉	平青民森

中村庸	渡邊文三郎	飯野俊一	岡崎久次郎	川畑敬太郎	竹田量之助	村山長次郎	吉富璣一	川方鞆男	丹勝吾	高野省三	太田有二	加福力太郎
士茨族城	平神奈川	士靜族岡	平神奈川	士京族都	士京族都	士東族京	平山民口	士茨族城	士愛族媛	士山族形	平康民京	平東民京

田口道藏	肥田武松	立川愛吉	河村賴之助	大木信次郎	犬塚武夫	出口恒三郎	野間貞次郎	桃井健吾	青木清太郎	勅使河原欽哉	吉岡信太郎	矢田長之助
士東族京	士愛族知	平岐民阜	平山民口	士福族島	士福族岡	平三民重	士三族重	平東民京	士東族京	士長族野	士東族京	平島民根

村瀬禮次郎	村田捨吉	安宅彌吉	内藤彌六郎	高橋德治	川口留吉	鹽田熊三郎	桃井裕郎	鈴木太郎	高橋橘太郎	池田政峻	酒美保造	中野觀象
平愛民知	平新民瀨	平石民川	平福民岡	平宮民崎	士東族京	平香民川	平東民京	士長族野	士茨族城	士東族京	士長族崎	士東族京

山村	爲介	平富	山	秋元	鏡次郎	士東	飯島	和一	平茨	民城	犬塚	文太郎	士熊	内海	鑑吉	士靜	富永	謙次	士東	山城	銈一	士鹿	日暮	錄之助	平千	大泉	金吾	平山	白木	彦太郎	平愛
民山	族京	族京	族本	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡	族岡

豫科第貳年生

河原林順次郎 平滋 民賀

木村	貞吉	士山	平井	鈴太郎	士崎	鹿野	治三郎	平岐	鶴田	金熊	士福	福田	由紀	平茨	民城	平野	貫一郎	平長	上野	藤之助	平山	佐藤	彦太郎	士山	中野	雄太郎	平群	民馬	
族形	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉	族玉

大熊篤太郎 平東 民京

菊地	幹太郎	平栃	須田	鏡造	士東	中村	巍造	平和	栖原	啓造	平和	柿内	常次郎	士東	岸	吉松	平新	岩橋	大六	平和	三谷	一六	平廣	山村	鹿彦	士東	野澤	長昌	士富	高田	恒次郎	平東	浮田	安七	平愛	藥師	嘉助	士鹿		
民木	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京	族京

森川	鑑太郎	平岐	大谷	登	士福	金子	福之助	平千	田中	覺司	平靜	永井	岩吉	平東	窪田	四郎	士山	川村	桃吾	士東	藁谷	英夫	士東	河井	浩	士山	相生	由太郎	平福	福島	於菟吉	士東	澤井	榮一郎	士長	榊原	眞平	平愛				
民阜	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井	族井

學生生徒

七十五

七十四

池	春	細	東	重	柴	柿	有	渾	井	外	上	中
內	日	野	條	信	山	沼	馬	大	上	山	野	島
官	恒	正	藤	愛	景	道	達	防	傳	一	嘉	虎
三	太	文	三	之	重	助	三	來	次	郎	吉	吉
郎	郎	郎	郎	助	重	助	三	三	郎	郎	吉	吉
士	平	平	士	士	士	士	平	平	平	士	平	士
高	長	新	東	鹿	東	東	廣	岡	北	鳥	群	佐
族	野	瀨	族	兒	族	族	島	山	海	取	馬	賀
知	民	民	京	島	京	京	民	民	道	族	民	族

小	森	古	佐	千	味	塚	仙	小	大	加	鹽	中
澤	島	谷	々	野	延	口	波	野	森	藤	谷	田
欽	孝	甲	木	郁	吉	慶	正	田	元	典	廉	銓
之	太	次	信	治	三	三	太	政	夫	雅	三	三
助	郎	郎	夫	治	郎	郎	郎	次	夫	夫	廉	三
平	平	平	士	士	平	平	士	平	士	士	士	士
神	東	東	東	東	廣	兵	滋	岡	愛	東	東	東
奈	京	京	族	族	島	庫	賀	玉	媛	族	族	族
川	民	民	京	京	民	民	族	民	族	族	族	族

安	岩	柴	藤	矢	市	狩	大	神	伊	力
田	波	田	田	上	川	谷	久	木	東	石
金	廣	春	島	以	三	三	保	治	金	元
吉	吉	樹	之	久	市	市	良	三	吉	次
郎	郎	郎	助	次	認	作	作	郎	郎	郎
平	士	平	平	士	平	平	士	平	平	平
京	長	崎	福	福	崎	東	群	東	東	東
民	野	玉	岡	島	玉	京	馬	京	京	京

中	三	大	松	內	增	畠	酒	岩	小	松
島	宅	平	南	藤	山	山	井	崎	見	岡
保	環	新	益	竹	鉞	衆	保	恒	忠	常
太	郎	藏	太	松	五	太	五	次	雄	磐
郎	環	藏	郎	松	郎	郎	郎	郎	郎	磐
平	士	平	平	平	士	士	平	士	平	士
東	山	神	茨	愛	靜	崎	東	石	宮	長
京	口	奈	城	知	岡	玉	京	川	城	崎
民	族	川	民	族	族	族	民	族	民	族

豫科第壹年生

加藤三平	和田喜傳	那波富治	中山晉	矢村克	黑澤精二	寺川治三郎	井出九郎	神成季吉	渡邊德太郎	南和三郎	長谷川隈次郎	最上國三
平山梨	士熊本	士岐阜	士長崎	士靜岡	士東京	平大分	士佐賀	士福岡	平山形	平大阪	平三重	平兵庫

有吉明	黑川喜太郎	安齋誠太郎	立川隆吉	山脇貞亮	中島隈吉	坂梨米吉	宮崎道三	小林庄五郎	川口西三	守永衆松	高橋俊三	長沼恭爾
士京都	平京都	士福岡	平東京	士東京	士神奈川	士福岡	平東京	平新潟	平新潟	平靜岡	平北海道	平群馬

高野復一	鶴田五郎	馬場玲藏	高瀬繁吉	服部源三郎	松本長藏	羽田福太郎	牛島三郎	杉田傳之助	鹿島龜吉	永田益一	鈴木春樹	白石菊藏
平東京	士佐賀	平兵庫	平福岡	平東京	平島根	士東京	平大分	平東京	平東京	士佐賀	士和歌山	平福島

西尾季吉	中村仁藏	安間陽吉	田中慶三郎	栖原榮輔	森三郎	大竹勝一郎	松谷祿郎	小野三平	三本重祇	內山吉五郎	高久馨	森廣藏
平千葉	士山口	士靜岡	平京都	平和歌山	平靜岡	平福岡	平山梨	士三重	士高知	平東京	士群馬	平鳥取

高松	銜	一	士長	野
杉原	元	大	阪	族
山本	雄	三	重	民
川井	讓	東	京	民
中井	博	東	京	民
平岡	三	靜	岡	族
中村	五	三	重	民
奧村	弘	京	都	民
野澤	太	新	潟	民
佐木	傳	愛	媛	民

附屬主計學校第二年生

手塚	謙	吾	靜	岡
井上	次	郎	手	民
伊東	三	郎	京	民
小柳	邦	太	京	民
高田	雄	稻	岡	民
安東	二	郎	岡	族
杉江	俊	夫	廣	島
大森	次	郎	長	崎
元木	補	吉	德	島

中村久太郎
平長野

久米	彌	太	三	重
松田	鶴	太	三	重
齋藤	宗	三	馬	民
山崎	由	次	玉	民
尾形	久	之	島	族
酒井	直	經	山	族
佐々	布	覺	東	京
河内	亮	三	東	京
内藤	友	衛	新	潟
菅井	起	四	福	島
上野	明	六	東	京
大橋	重	義	岐	民
廣瀬	真	一	大	阪

瀨下	清	長	野
野口	廣	太	三
府川	久	宗	神
伊藤	幸	吉	佐
本多	市	郎	愛
榎田	由	次	山
今井	多	三	大
近藤	安	藏	千
伊藤	庄	助	東
城戸	崎	万	福
廣瀬	實	光	高
久保	木	完	兵
石井	勇	次	千

學生生徒

木村 得三 士東族京
 片田 江駒三郎 士長族崎
 岩本 宜藏 平鳥民取

全 第一年生

望月 八郎 士新族瀧
 川井 源八 平福民島
 高橋 勝吉 平東民京
 高尾 半一郎 士長族崎
 西 幸廣 士和歌山族
 伊藤 律太郎 平岐民阜
 花房 熊彦 平東民京
 坂口 直馬 士東族京

大橋 元成 士岐族阜
 宮崎 良三郎 平東民京

青木 文次郎 平愛民知
 上田 常記 士巖族手
 鈴木 幹三郎 平三民重
 小幡 三郎 士東族京
 井上 好一 士東族京
 大出 安雄 平長民野
 今井 繁 士東族京
 溝口 直吉 平東民京

宮津 起一 平東民京
 糸永 宗吉 平大民分
 兼松 道彦 平兵民庫
 富田 恭平 士愛族媛
 高橋 鍊逸 士東族京
 吉原 恒三郎 平福民岡
 山田 昇三郎 平愛民知
 櫻井 龍 士東族京
 栗原 又次郎 平東民京
 森本 金一郎 士愛族知
 篠田 於菟雄 平福民岡
 多羅 間政輔 士山族口

井上 竹藏 平兵民庫
 片柳 修 平東民京
 勝野 秀齋 平東民京
 長谷川 鏡次 平岐民阜
 橋本 安一 士佐族賀
 藤田 豐三郎 士宮族崎
 保坂 德太郎 平東民京
 岡田 四方次郎 平東民京
 松尾 彌太郎 平大民阪
 一色 榴吉 士東族京
 上田 久太郎 平石民川

學生生徒年齡表

平均	本 科		豫 科		附屬主計學校	
	最長	最少	最長	最少	最長	最少
二十一年八ヶ月	二十六年十一月	十七年六月	二十四年九月	十六年一月	二十五年三月	十七年五月
						十九年十一月

當校出身者姓名

本校創立以來今日ニ至ルマテ學籍ヲ本校ニ掲ケタル者ハ殆ト三千蓋シ皆其學ヲ所ヲ以テ各應分ノ業務ニ從事シツ、アルベシト雖モ現ニ本校ニ通知ヲ得タルモノハ大凡六百名ニ過キス而シテ其業務ニ就テ區別スレハ商業會社商店及銀行等ニ從事スルモノ三百四十三名諸官廳ニ職ヲ奉スルモノ百十六名商業教育ニ從事スルモノ五十名海外留學生一名其他ハ卒業生ニシテ就職ノ後死亡セシモノ又ハ兵役中ノ者等ナリ今其明細ヲ擧ク

合 計	沖 繩	鹿 兒 島	宮 崎	熊 本	佐 賀	大 分	福 岡	高 知	愛 媛	香 川	德 島	和 歌 山	山 口	廣 島	岡 山	鳥 根
三八	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五六																
八一				三									三			二
七六		二										三	三	三		
七二					三	三	二					二				
八																
五三																
三九																
一七五		五		四	七		四	四	六			三	七			
二二七						三	六	一	二			四	四	四		四
四〇二		五	二	六	七	三	一〇	五	八	一	三	七	二	六	三	四

學生々徒府別縣級別一覽表

府/縣	本			豫			附屬主計學校	族	籍	小計
	第三年	第二年	第一年	第二年	第一年	第一年				
北海道廳										
東京	八	二	一六	二五	一四	一	六	一六	四七	九七
京都			二		四			一六	五	四九
大阪			三		二			一	一	八
神奈川			二		二			二	二	八
兵庫								二	二	九
長崎								一	六	一〇
新潟								一	三	一三
埼玉								二	二	一〇
群馬								一	二	八
千葉								二	一	一〇
茨城									三	九
栃木									一	二
奈良										
三重									四	一三
愛知								三	三	一〇
靜岡									七	一七
山梨									一	三
滋賀									二	七
岐阜									二	一〇
長野									六	一四
宮城									一	二
福島									七	一三
巖手									一	二
青森									二	三
山形									一〇	一七
秋田									二	一
福井									二	四
石川									一	五
富山									二	三
鳥取									二	四
島根									二	四
岡山									一	三
廣島									二	六
山口									七	一
和歌山									三	七
徳島									二	三
香川									二	一
愛媛									六	八
高知									四	五
福岡									四	一〇
大分									一	三
佐賀									七	七
熊本									四	六
宮崎									一	二
鹿兒島									五	五
沖繩										
合計	三八	五六	八二	七六	七二	八	三三	三九	一七五	四〇二

レハ左ノ如シ

卒業生

卒業年月

就職場所

姓名

明治十年三月

自家營業

森島修太郎

全

年四月

大坂商業學校

成瀬隆藏

全

年七月

長崎外國商館

隈本榮一郎

全

不詳

米國陸軍々吏

内村恒之

全

雜貨營業

死亡

中川榮吉

全

明治十一年四月

日本郵船會社

山口甫吉

全

日本鐵道會社

死亡

松下道久

全

明治十四年二月

自家營業

倉西松次郎

全

自家營業

自家營業

鈴木熊太郎

出身者姓名

全	三井物産會社橫濱支店	坂本良五
明治十四年二月	死亡	鈴木久孝
全	三井物産會社上海支店	間島與喜
明治十五年三月	死亡	田邊太郎一
全	北海時論社	村上祐
全	第一國立銀行朝鮮支店	西脇長太郎
全	北海道製麻會社	羽田桂之進
明治十六年三月	三井物産會社上海支店	小室三吉
全	高等商業學校	原田貞之介
全	死亡	長野源太郎
全	神戸外國商館	齋藤軍八郎
全	橫濱同伸會社	新井貢
全	海上保險會社	羽生久安

全	米國メーソン商會代理店	堀越善重郎
全	甲武鐵道會社	安藤高太郎
全年九月	死亡	篠有道
全	三井物産會社新嘉坡支店	福井菊三郎
明治十七年二月	鐵道廳	名倉竹次郎
全	三井物産會社倫敦支店	大野市太郎
全	茨城縣廳	三戸得一
全	不詳	一瀬鏡之助
全	在朝鮮	植野繁太
全	不詳	朝比奈庸吉
全	橫濱水道會社	田中元次郎
全	在上海三菱鑛行	宮塚亥之助
全	東京灣汽船會社	佐藤鐵三

出身者姓名

全	新潟商業學校	東 富五郎
全	長崎縣師範學校	原口松次郎
全	死亡	來島久祐
全	自家營業	小倉鈴之助
全	大坂商業學校	草野安吉
全	死亡	鈴木録作
全	第一國立銀行	須藤壯一郎
全	死亡	陶山與一
全	日本銀行	山田七郎
全	米國桑港スミツス商會	藤田柳之助
全	明治十八年三月 名古屋商業學校	高柳豐三郎
全	名古屋商業學校	佐々木要一
全	小樽商業學校	依田貫一

全	正金銀行倫敦支店	高杉東一
全	神戸十七番米國貿易商會	新井謹三
全	高田商會	草刈義三郎
全	明治火災保險會社	原 錦吾
同	北海道製麻會社	福田久徳
全	三井物産會社倫敦支店	藤瀬政次郎
全	米國綑育サイモン商會	西川一平
全	三井物産會社本店	北邨七郎
全	全	朝比奈孝重
全	全 上海支店	高木鏡太郎
全	自家營業	久原房之助
全	明治十九年三月 江州八幡中一商會	松尾幹次
全	廣島縣廳	佐々木虎太郎

全	高等商業學校	奧村忠三郎
全	日本銀行	豐田幸二
全	日本鐵道會社	澤野銀藏
全	米國紐約クリプル、エンド、ナツシユ商會	中山三保太郎
全	死亡	小林喜一
全年七月	北海道炭鐵鐵道會社	高野寬三郎
全	不詳	伊東雄次郎
全	大坂商業學校	岡野熊太郎
全	鐵道廳	水野專吉
全	中外商業新報	兼子初太郎
全	自營	保田安政
明治二十年三月	橫濱正金銀行	水島鏡也
全	第一百十九國立銀行	江口定條

全	三井鑛山會社	市邨芳樹
全	長崎商業學校	東 爽五郎
全	不詳	四屋章之
全	外務省	須藤十二郎
全	死亡	吉田貞太
全	商業素修學校	森田熊太郎
全	鐵道廳	梅田信五郎
全	内外用達會社	小林安之助
全	外國貿易自營	丹野茂樹
全	神戸商業學校	丸岡久之助
全	不詳	春名鏈之助
全	新潟商業學校	宇尾野藤八
全	明治二十年七月	富田勝三郎
全	自家營業	

出身ヲ姓名

全	死亡	中川市郎
全	橫濱九拾三番館ウイニコイ商會上村清一	村松龜太郎
全	不詳	田崎要
全	日本鐵道會社	松田好生
全	高田商會東京本店	滑川桃作
全	死亡	小原右馬允
全	尾道商業學校	岩田謙三郎
全	三池炭鑛社	田中倍次郎
全	橫濱商館	各務謙吉
全	明治廿一年七月 海上保險會社	下野直太郎
全	高等商業學校	宮崎律三
全	不詳	高橋鈴太郎
全	神戸商業學校	

出身者姓名

全	死亡	駒井佳三郎
全	神戸商業學校	稻田藤次郎
全	日本鐵道會社	井上英七郎
全	第一百十九國立銀行	坂野兼通
全	赤間ヶ關商業學校	武田勝太郎
全	生絲業自營	錦戶右門
全	函館商業學校	立花寬藏
全	大坂商業學校	太田正躬
全	名古屋商業學校	有村彦九郎
全	在濠洲	松崎萬之丞
全	大坂内外綿會社	榎本謙七郎
全	大坂紡績會社	杉村仙之助
全	三井物産會社神戸支店	田村實

全	大坂商品陳列所	太田黒 重五郎
全	關東石材會社	瀧澤吉三郎
全	鐵道廳	栗田代作
全	三井物産會社東京本店	藤田直治
全	橫濱コツキング商會	津田萬吉
全	全	松井竹次郎
全	自家營業	青木金太郎
全	外務省倫敦在勤	森川季四郎
全	正金銀行紐育支店	長岡 長
全	外務省羅馬在勤	小原金三郎
全	三井物産會社上海支店	友常和中
全	自家營業	田邊文索
全	三井物産會社上海支店	藤本悦次郎

全	日本鐵道會社	平岡寅之助
全	三井物産會社上海支店	大口久太郎
全	鐵道廳	古澤謙吉
全	外務省朝鮮領事館	大木安之助
全	自家營業	中尾勘一郎
全	神戶商業學校	長尾良吉
全	神戶商業學校	名倉泰三郎
全	海軍水路部	小林武一
全	神戶商業學校	下條直幹
全	死亡	高橋三郎
全	第一國立銀行	河田大三九
全	死亡	櫻庭豐吉
全	死亡	並木良平

明治廿四年七月

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

貴賓館	大原春次郎
秀英舍	保坂京三郎
長崎商業學校	若衫米太郎
北海道製麻會社	高木辰男
橫濱二百十一番ハレト商會	露木初太郎
海軍省	關口積一郎
三井鑛山會社	平松鉞五郎
未定	山路幾太郎
海軍省	鹿野太一
未定	石橋德次郎
全	淺野陽吉
鐵道廳	藤岡九二三
淺野セメント會社	平田恒太郎

出身者姓名

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

遞省信	松本平太郎
一年志願兵	林 德太郎
大坂商業學校	大友泰一郎
一年志願兵	原田芳太郎
遞信省	加藤 正生
研究生	小林 政雄
一年志願兵	田中新之助
自家營業	中野又次郎
研究生	近 藤 千吉
大坂商業學校	山田萬里四郎
自家營業	諸井孝次郎
織物會社	工藤金三郎
北海道炭鑛鐵道會社	佐藤清太郎

全 全 全 全

橫濱税關

未定

鐵道廳

農商務省

長屋庄三郎

平田鈴吉

鍋島熊太郎

永平豐吉

卒業セサル者

三井銀行

自家營業

自家營業

大坂鐵道會社

朝鮮釜山港商業學校

函館商業學校

四日市紡績會社

岩下清周

石井安之助

磯部水哉

原楨常男

濱田弘道

大村 勵

岡 常夫

自家營業

三井物產會社倫敦支店

日本郵船會社

全

第百國立銀行

東京海上保險會社

日本圖書會社

三井物產會社

東京米穀倉庫會社

日本郵船會社

東京郵便電信學校

日本銀行

山口縣高等小學校

大多和彦六

渡邊專次郎

各務幸一郎

川田龍吉

川崎 晉

玉江文太郎

竹田敬三

竹田貞松

辻 音吉

村瀬和一郎

上野昌次

熊倉四郎

大和春之助

出身者姓名

在墨西哥其日本領事館
 神戶外國商館
 鐵道廳
 日本銀行
 墨西哥公使館
 自家營業
 炭鑛鐵道會社
 在廣東日本領事館
 日本銀行
 東京正田組
 日本郵船會社
 自家營業
 日本鐵道會社

藤田敏郎
 小林雄志
 河內鮮太郎
 出口保太郎
 足助太郎
 佐藤助五郎
 北代成業
 宮川久次郎
 神保新吉
 正田次郎
 篠崎誠
 日名子太郎
 隅田英治

東京府廳
 前橋市役所
 堀越商店
 大日本製藥會社
 同伸會社
 自家營業
 大藏省
 京都中學校
 四日市三重紡績會社
 森村組
 鑛業
 日本銀行
 第十國立銀行

首藤錦之助
 杉銓太郎
 菅川清
 池邊作郎
 池山英次郎
 石川正輔
 今富清作
 廣瀬辰次郎
 八卷道成
 細井僖吉
 細野次郎
 星野銚之助
 渡邊信

自家營業
 遞信省
 日本鐵道會社
 橫濱商館
 宮內省
 京都麻布會社
 布哇日布商會
 日本鐵道會社
 自家營業
 富山縣
 北海道製麻會社
 船具會社
 農商務省

渡邊安之助
 上村傳之助
 吉川義幹
 玉置恭三郎
 蓮田哲太郎
 塚原昌吉
 津久井長甫
 土屋金次
 申田新太郎
 熊野秀之輔
 葛岡是學
 久保田道
 山田彦七郎

函館商業學校
 廻漕業
 第三國立銀行
 宮內省
 第一國立銀行
 遞信省
 全
 橫濱ピング商會
 橫濱居留地警察署
 神奈川縣廳
 自家營業
 雜貨輸入商
 貿易商會

山村榮龜
 安井源藏
 馬場榮久
 松平定教
 增田良知
 松木董宣
 福岡力太郎
 福澤英之助
 小林茂太郎
 淺田徐五郎
 朝川錄二
 佐野令三
 佐藤永孝

第二國立銀行
 自家營業
 香瀾社
 遞信省
 前橋爾糸改良會社
 自家營業
 全
 北海道廳
 第一百十九銀行
 廣業商會
 農商務省
 雜業
 鐵道廳

坂田五郎
 北脇豐晴
 官崎權八
 三田文吉
 宮崎勝善
 日比野正一
 宏 虎童
 青木哲之助
 上領純一
 瀬戸卯三郎
 千田龍之助
 鈴木千吉
 圖師民嘉

株式取引所
 高田商會
 米國シホゴ博覽會
 高田商會
 自家營業
 全
 内外用達會社在倫敦
 全
 米國紐育關西貿易商會
 神戶商業會議所
 煉化石販賣所
 在米國
 三菱社

杉浦直也
 末川軍治
 千坂 忠
 白井慎一
 印東哲太郎
 橋本省三
 高橋邦三
 高谷鹿二
 玉井魁助
 石川祐太郎
 林 喜代松
 松野菊太郎
 堀 久太郎

自家營業
 大藏省
 自家營業
 第七拾七國立銀行
 自家營業
 鑛業
 自家營業
 全
 全
 內國通運會社
 全
 水陸海產會社
 札幌電燈會社

豐田久之助
 太田十一
 岡崎和助
 河田安政
 河原太郎
 柏木次郎熊
 加賀孝一郎
 鍵富卯一郎
 鍵富岩三郎
 吉村甚兵衛
 吉村左平
 田中治七
 村木嘉策

第一國立銀行
 第七十七國立銀行
 在米木材營業
 海軍省
 高島商會
 三井物產會社
 遞信省
 帝國大學
 自家營業
 全
 東京製帽會社
 日本銀行
 自家營業

來島祐三郎
 熊谷直行
 松波正之
 福田臨
 森脇一
 安藤周二郎
 木村亮吉
 中村虎次郎
 三輪潤太郎
 白瀬和一郎
 土肥修策
 柴田修
 杉井幾三郎

出身者姓名

全	正金銀行	杉山重威
	橫濱サミユル商會	野口守三郎
	自家營業	原亮一郎
	學習院	岩井順吉
	自家營業	有森新吉
	三井物産會社	桐生孫聰
	三井銀行	松田達治
	米國コロラド州デンバー府雜貨營業	宮田辰三郎
	附屬主計學校卒業生	今村直藏
明治十九年七月	日本銀行	永井幸次郎
全	自家營業	清水靜太郎
全	書肆	和田貞吉

全	死亡	內藤滿一
全	第九拾五國立銀行	大辻連太郎
全	大藏省	猪狩勉三
全	全	山本銈十郎
全	死亡	和田銈之助
全	不詳	井上寬
全	日本銀行	田中彦兵衛
全	不詳	中野音熊
全	遞信省	杉原由藏
全	日本製鐵會社	堀田芳雄
全	不詳	蒲地徳一郎
全	橫濱正金銀行	田中金彦
全	不詳	小林小市

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

大藏省	不詳	橫濱正金銀行	柏組唐津支店	信濃銀行	死亡	鐵道廳	明治火災保險會社	日本鐵道會社	鐵道廳	第一高等中學校	大藏省	柏組
長井熊彦	幸島武三郎	宮川恭太郎	中川彌六	林芳生	梶川糸之丞	各務鍵之助	山成喬六	藤村喜三郎	北鄉重郎	金万喜人	屋代忠恕	三好亦次郎

出身者姓名

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

高等商業學校	鐵道廳	全	全	不詳	宮城縣廳	不詳	自營	日本鐵道會社	遞信省	第二高等中學校	海軍水路部	日本鐵道會社
吉川榮太郎	荒川辰之助	淺野貞吉	岡新吾	藤田四郎	伊達宗康	坂田靱彦	高津伊之助	渡邊篤	伊藤繁次郎	田邊太郎	進修太郎	兒井英松

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

全
農商務省
正金銀行
未定
全
全
三井物産會社
未定
秋田縣廳
岡本銀行
自家營業
明治火災保險會社
文部省

森田忠吉
河新太郎
廣田耕吉
井上元太郎
森廉次郎
關島善吉
毛利馬之助
佐野久雄
湯瀬禮太郎
奧村順之助
篠原竹次郎
川澄恭
折田利行

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

徵兵
未定
自家營業
大坂鑛山監督署
未定
商況社
正金銀行
三井銀行
大坂農工商新聞社
未定
大坂商船會社
三井銀行
一年志願兵

大塚伊三郎
淺井三朗
若林與左衛門
兒王又市
村山嘉太郎
小河作郎
長田友次郎
柴田鉛太
島覺司
久保武巖
山本照松
村林專之助
勝田耕造

全	埼玉縣廳	小木辰之助
全	鐵道廳	田下文治
全	日本銀行	福岡雄四郎
全	未定	大泉辰四
全	全	加藤保吉
全	鐵道廳	白勢鏡次郎
全	大藏省	藤本友藏
全	第一國立銀行朝鮮支店	志邨作太郎

商品見本陳列場

商品陳列場ハ本校構内南部ニ在ル所ノ一館ヲ以テ之ニ充ツ蓋シ該場ハ商品科ヲ教授スルニ方リ學生ニ示スヘキ標本ヲ蒐集陳列スル所ニシテ其管理整頓ハ商品科受持ノ教授之ヲ擔任シ學生ヲシテ力メテ實物ニ接シ研究

スルヲ得セシムルノ便ヲ設ク故ニ場内ハ單ニ商品ノ標本ヲ排列スルノミニ止ラス其採集及製造ノ順序荷造等ニ至ル迄或ハ模型或ハ圖書ニ因リテ示スノ方法ヲモ併セ設クルモノトス
 商品ハ舊外國語學校附屬高等商業學校ヨリ引繼キタルモノ本校ニ於テ蒐集シタルモノ第三回内國勸業博覽會ニ於テ御買上ノ上宮内省ヨリ下附セラレタルモノ及内外國有志者ノ寄附ニ係ルモノ等ニテ目下其數八千有餘點ニ達セリ

土地及建物

(二十五年十二月調)

本校敷地ハ神田區一ツ橋通町一番地ニ在リテ附屬主計學校敷地ハ同區錦町三丁目十四番地ニ体操場ハ其隣地拾三番地ニ在リテ共ニ本校ト道路ヲ隔テ、相對ス又火除地ハ本校ノ背後ニ在リテ本多河岸ト稱ス今其地積ヲ舉クレハ

本校
同火除地
体操場
附屬主計學校

合計

本校ハ目下改築中ニ係ルヲ以テ其建物ニ時々變更ヲ生スレモ今其現況ヲ示サハ

本校	教場	全	書庫及閱覽所	事務所	商品陳列所
種	煉	木	煉	全	木
類	化		化		
坪	造	造	造	造	造
數	四六八	九八	六七	一〇六	九〇
	二〇九	一六五	二三一	〇〇〇	〇〇〇

倉庫	舊寄宿舍	廊下	全上其他	小計	附屬主計學校建物	体操場建物	端艇番人詰所	總計
土	木	煉	木		木	木		
造	造	化	造		造	造		
數	一〇三	一五八	二五六	一、六一一	一五〇	三一	六	一七九九
	〇〇〇	五〇〇	七五七	七四七	六一〇	四一〇	〇〇〇	七六七

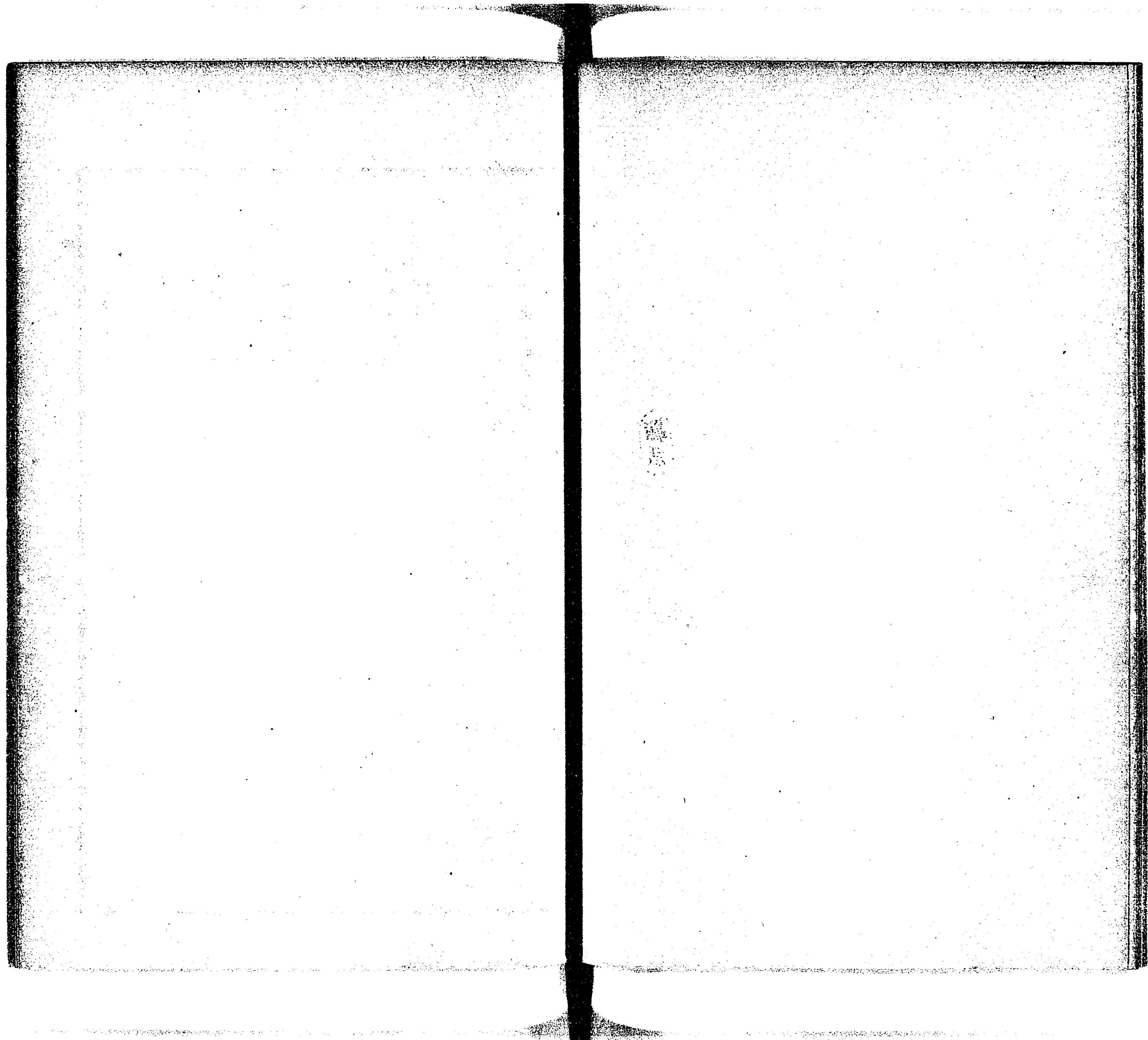
273
3

高等商業學校一覽

從明治廿六年
至明治廿七年

八〇	五五	五一	三	丁數
一〇	五五	五一	一	行數
佐木	知	解	附屬	誤
	識	譯	ナト	
佐伯	智	解	ト	正
	識	釋	ナト	
表府縣別	二二七	一〇三	八一	丁數
滋賀	一二	一三	四	行數
欄主計第一八行	庚次郎	海軍省	伊藤	誤
	第二			
ヲ研究ス	康次郎	未定	伊東	正
	欄一			

正誤



高等商業學校一覽

目次

一 沿革概略

二 官制及職員定員

三 商議委員會規程

四 校務委員會規程

五 商議委員及職員

六 學曆

七 總則

八 學級學科課程

九 學年、學期、休業規程



寄贈本

一丁

六丁

八丁

九丁

十丁

十一丁

十七丁

十九丁

全丁

二十丁

目次

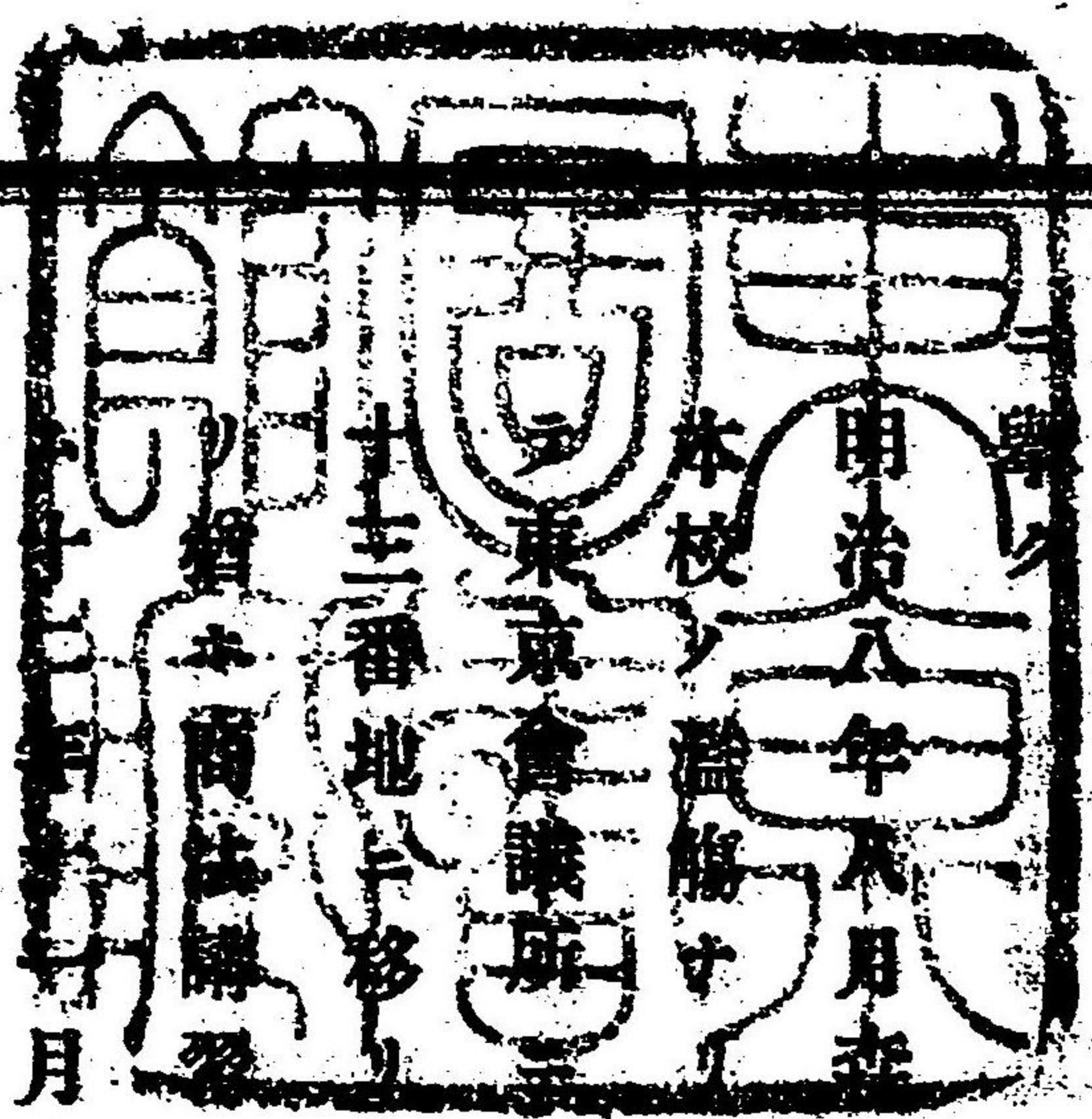
一

入學、在學、退學規程	二十一丁
試業進級及卒業規程	三十丁
研究科規程	三十五丁
授業科規程	三十六丁
圖書貸付及閱覽規程	三十七丁
學費貸給規程	四十丁
學生生徒心得	四十四丁
授業要領	四十七丁
學生生徒現員	五十八丁
學生生徒年齡表及卒業生	七十三丁
舊附屬主計學校卒業生	九十九丁
商品見本陳列場	百十七丁
土地及建物	百十八丁

高等商業學校一覽

沿革概略

本校ハ明治十八年九月今ノ地ニ開設スト雖モ其之ヲ創立セシハ實ニ明治八年ニ在リ而シテ其間興廢沿革記スヘキ者甚タ多シ今其要ヲ摘ミ之ヲ左



明治八年八月森有禮創メテ商法講習所ヲ東京尾張町ニ假設ス是レ則チ本校ノ濫觴ナリ十一月森有禮清國駐紮ノ命ヲ奉スルヲ以テ校事ヲ舉ケ東京會議所ニ附ス是ニ於テ爾後其管理ニ屬ス九年五月木挽町十丁目十三番地ニ移リ同月遂ニ府立トナル是ヨリ東京府廳ノ管理スル所トナリ十一月府廳東京商法會議所議員滋澤榮一、益田孝、福地源一郎、木村利右衛門、清水九兵衛五名ヲ舉ケテ南法講習所委員トナシ規則ヲ撰定セシム十四年七月本校俄ニ廢セラレ蓋シ是年府會ニ於テ本校經費ノ支

沿革

出ヲ拒絕セシヲ以テナリ九月府廳農商務省ニ稟請シ其補助ヲ得テ再ヒ之ヲ興シ舊ニ依リ矢野次郎ヲ以テ所長ニ任ヌ十五年府下有志ノ商賈金ヲ融シテ本所維持ノ資金ニ充ツ十六年十月矢野次郎職ヲ辭シ東京府御用掛南貞助ヲ所長事務心得ト爲ヌ十七年三月同所ヲ農商務省ノ直轄官立學校ト爲シ東京商業學校ト改稱シ農商務權少書記官河上謹一校長ヲ兼任ス六月農商務省更ニ第一國立銀行頭取澁澤榮一日本銀行副總裁富田鉄之助三井物産會社社長益田孝ニ本校々務商議委員ヲ囑託ス八月河上謹一職ヲ辭シ矢野次郎復ヒ校長ニ任ヌ十八年五月文部省ノ管轄ニ屬ス是年九月文部省其所轄ノ東京外國語學校及其附屬高等商業學校ト本校トヲ併セテ更ニ東京商業學校ト稱シ舊東京外國語學校跡即チ神田區一橋通町一番地ノ校舍ニ據テ之ヲ開設ス文部省御用掛森有禮本校監督ヲ兼ネ校長及商議委員共ニ故ノ如シ十九年一月本校教科ヲ分テ高等部普通部語學部ノ三部トナス此月木挽町ナル舊校舍ニ就テ新ニ商工徒弟講習所ヲ開設

シテ本校ノ附屬トナス該所ハ則チ商工ノ子弟ニ實地近易ノ學術ヲ授クル所ナリ二月高等部語學部ヲ廢ス四月本校職制定リ始テ教頭幹事ヲ置ク五月大藏省所屬銀行事務講習所ヲ文部省ノ管轄トナシ且之ヲ本校ニ屬ス因テ銀行專修科ト改稱シ舊則ニ從テ專ラ銀行ノ業務ヲ教授ス六月其校舍ノ神田錦町壹丁目ニアルモノヲ本校内ニ移ス七月本校及附屬商工徒弟講習所同銀行專修科ノ規則ヲ改定シ九月之ヲ施行ス其大要本校教科ハ尋常高等ノ二科ニ分テ課程ハ尋常科三年高等科二年通シテ五年ヲ以テ業ヲ卒フル者トス商工徒弟講習所教科ハ職工科別科夜學科ノ三科ニ分テ其課程ハ職工科三年別科二年ナリ而シテ夜學科ハ當時未タ之ヲ定メヌ又銀行專修科ハ其課程ヲ二年ト定ム廿年三月復ヒ本校規則ヲ改正シ次學期ノ始ヨリ之ヲ實施スルトシ尋常科高等科ノ稱ヲ廢シテ豫科本科ヲ置キ其修學年限ハ豫科ヲ一年本科ヲ四年トシ且其程度ヲシテ稍高尙ナラシム六月附屬銀行專修科ヲ主計專修科ト改稱シ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ須要ノ

學術及實務ヲ教授スル所トナシ因テ其教則ヲ定メ九月改定規則ヲ實行ス
十月本校ヲ高等商業學校ト改稱ス廿一年三月本校々長職務規程ヲ定メラ
ル四月研究規則ヲ修正シ其研究年限ヲ二ケ年ト爲ス八月伊太利語ノ一科
ヲ試設ス廿二年三月本校及附屬科ノ規則ヲ改正シ本科ノ修業年限ヲ三年
トナシ附屬主計專修科ヲ主計學校ト改稱ス同月卒業證書授與ノ正式ヲ執
行シ商法講習所創立以來廿一年七月ニ至ル本校卒業生百十八名及銀行事
務講習所引繼以降主計專修科ニ至ル迄ノ卒業生五十五名ニ卒業證書ヲ授
與ス十月附屬商工徒弟講習所別科ヲ分離シテ本校補充科トナス廿三年一
月附屬商工徒弟講習所ヲ職工徒弟講習所トナシ本校ヨリ分離シテ東京職
工學校ニ移ス七月閣議本校々舎ノ改築ヲ決定シ其費用ハ廿二年度ヨリ廿
七年度迄繼續費トシテ支出スルコト、爲シ同年之レカ工事ニ着手ス十月
更ニ本校官制ヲ定メラレ教頭ノ職ヲ廢シ教諭ヲ教授トシ助教諭ヲ助教授
ト爲シ各其員數ヲ定メラルニ二十四年七月本校規則ヲ改正シ補充科ヲ廢シ

テ豫科二年本科三年ノ教程トシ學科ヲ増設シ程度ヲ高尚ニス同月附屬主
計學校規則亦改正ヲ加ヘ稍其程度ヲ高メタリ八月官制ノ改正アリテ幹
事ノ職ヲ廢ス十二月改正官制ニ據リテ商議委員規程ヲ改定ス二十五年一
月教務委員規程ヲ定メ委員三名ヲ置キ四月本校官制ニ據リ更ニ商議員七
名ヲ置ク十一月第二回卒業證書授與式ヲ舉ケ明治廿三年以後ノ本科卒業
生百五十六名及二十二年以後ノ附屬主計學校卒業生百二十五名ニ卒業證
書ヲ授與ス二十六年四月校長矢野次郎職ヲ辭シ法科大學教授和田垣謙三
臨時校長事務取扱ヲ命セラル六月文部省參事官由布武三郎校長ニ任シ和
田垣謙三ノ事務取扱ヲ免セラル七月商議委員ノ更替増員アリ八月官制ヲ
改正セラル同月規則ヲ改正シ從來豫科二年ナリシヲ一年トシ各尋常中學
科卒業生ノ優等者ハ試驗ヲ要セス各商業學校ノ優等卒業生ハ若干ノ普通
學科ヲ試驗シ俱ニ豫科ニ入學ヲ許スコト、シ又學科ノ如キ其一ニヲ併合
シ第二外國語中ニ露語ヲ加設シ且ツ授業時間ニ増減ヲ加ヘタリ九月改正

規則ヲ施行ス同月附屬主計學校ヲ廢止セラル十一月第三回卒業證書授與式ヲ舉行シ本年七月卒業ノ本科生三十七名主計生三十名ニ本證書ヲ授與ス

官制及職員定員

勅令第八十六號(明治二十六年八月二十四日公布)

文部省直轄諸學校官制(本校ニ關スル分抜抄)

- 第一條 文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校第一高等中學校第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校第五高等中學校東京工業學校東京美術學校及東京盲啞學校トス
- 第二項省ク
- 第五條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長

教授

助教授

書記

第六條 校長ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第七條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ク

第八條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置クノ必要アルトキハ教官ヨリ兼任セシム

舍監ハ奏任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

勅令第八十七號(明治二十六年八月二十四日公布)

文部省直轄諸學校職員定員(本校ニ關スル分抜抄)

高等商業學校

校長

一人

教授

十二人

助教授

十二人

書記

七人

商議委員會規程(明治廿四年十二月改定)

第一條 文部省直轄諸學校官制第七條ニ依リ高等商業學校ニ商議委員會ヲ置ク

第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

文部省又ハ其所屬高等官

二名

農商務省高等官

二名

商工業ノ經歷アル者

三名以上
七名以下

第三條 商議委員會ハ學科課程重要ノ諸規則其他學校長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ審議スルモノトス

第四條 商議委員會ハ文部大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第五條 商議委員會ノ會議ハ學校長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス

但商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得

第七條 商議委員會ノ決議ハ學校長ヨリ文部大臣ニ報告スヘシ

教務委員規程

第一條 高等商業學校ニ教務委員三名若クハ五名ヲ置ク

教務委員規程

第二條 教務委員ハ教授中ヨリ學校長文部大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス
第三條 教務委員ハ學校長ノ監督ヲ承ケ教務ヲ掌理ス

商議委員

就職順 明治廿七年一月一日開

第一國立銀行頭取	澁澤榮一
三井銀行監督	益田孝
農商務次官	齋藤修一郎
文部書記官	小山健三
正金銀行頭取	園田孝吉
日本鐵道會社社長	小野義真
日本郵船會社副社長	吉川泰次郎
三菱社取締役	莊田平五郎
明治生命保險會社社長	阿部泰藏

農商務省商工局長
法科大學教授

若宮正音
法學博士 和田垣謙三

職員

學校長

×明治廿七年一月一日開
×印ハ他ヨリ兼務ノコト

兼文部省參事官
法學士

由布武三郎

教務委員

教授

神田乃武

全

石川巖

全

飯田旗郎

教授

英語

マスター、チーフ、アーツ

神田乃武

化學、商品

理學士

石川巖

商議委員、職員

商業要項及實踐

簿記、實踐

簿記

統計

法律、獨語

商業要項及實踐、簿記

英語

作文

全

囑託

商業歷史

經濟

倫理

リサンシエー、アン、シ
ンス、ゴムメルシアル

飯田旗郎

×安村喜當

×木村匡

×高橋二郎

ドクトル、エーリス

高木甚平

リサンシエー、アン、シ
ンス、ゴムメルシアル

村瀬春雄

ドクトル、チフ、フイロソフイー

家永豊吉

バッヂェラル、チフ、ロー

杉山令吉

前橋孝義

法學博士

和田垣謙三

文學士

添田壽一

岡崎撫松

商業要項

商業地理、博物

法律

佛語

經濟

英語

全

物理

實踐、簿記

助教授

作文

數學

書法

理學士

松本安藏

米國法律博士

奈佐忠行

文學士

神屋三郎

バッヂェラル、チフ、アーツ

渡邊小三郎

天野爲之

高島捨太

理學士

長谷川方文

神谷豐太郎

下野直太郎

板谷良作

村林建藏

小島春

職員

圖書	商業歷史、作文	松井昇
體操	全	橫井時冬
露語	囑託	西村正立
數學		長谷川福橘
商業要項		鈴木虎之助
全		藤堂紫朗
體操		村瀬太郎八
外國教師		唐澤孝二郎
		名倉竹次郎
		林幾太郎
		山浦岩太郎

雇

リサンシエー、アン、シア
ンス、コムメルシアル

マワド、ジエー、ナロク、ホイス
アレキサンダー、ジエー、ヘーヤ

英語
伊、西、獨語

エミ、リ、ナ、ビ、ン、ダ

支那語

囑託

張滋昉

書記

庶務掛

助教授

板谷良作

會計掛

千葉實

學生掛

小菅元四郎

全

篠崎劍作

圖書掛

助教授

西村正立

會計掛兼學生掛

池上齋吉

職員

會計掛

市ノ川光太郎

全

日下部嘉納

庶務掛

大泉辰四

雇員

圖書掛

古坂辨三

商品掛

神吉常次

圖書掛

玉村岩造

博物助手

和田爲治

商品掛

中野藤作

物理化學助手

中村新三郎

囑託

醫師

杉本良齋

學 曆

明治二十六年九月十一日ヨリ二十七年九月十日迄至ル一學年間ノ學曆ヲ
記叙スルニ左ノ如シ

廿六年九月十一日

第一學期始

全 九月廿三日

休業秋季皇靈祭

全 十月十七日

全 神嘗祭

全 十一月三日

全 天長節

全 十一月廿三日

全 新嘗祭

全 十二月十一日

第一學期試業始

全 十二月廿四日

第一學期終

全 十二月廿五日

冬季休業始

廿七年一月七日

冬季休業終

全 一月八日

第二學期始

學 曆

廿七年一月三十日	休業孝明天皇祭
全 二月十一日	全 紀元節
全 三月廿日	全 春季皇靈祭
全 三月廿六日	第二學期試業始
全 四月三日	神武天皇祭
全 四月十日	第二學期終
全 四月十一日	第三學期始
全 六月廿五日	第三學期試業始
全 七月十日	第三學期終
全 七月十一日	夏季休業始
全 九月十日	夏季休業終
全 全	學年終
每日曜日	休業

規則

第一章 總則

第一條 本校ハ主トシテ内外商業ニ關スル高等ノ教育ヲ施シ將來公私ノ商務及會計ヲ處理スヘキ者并商業學校ノ主幹又ハ教員タルヘキ者等ヲ養成スル所トス

第二條 本校修學年限ハ本科ヲ三箇年トシ豫科ヲ一箇年トス

第三條 豫科本科ノ外ニ研究科ヲ置ク其修學年限ハ一箇年トス

第二章 學級及學科課程

第四條 豫科本科各一年ヲ以テ一學級トシ其學科及課程ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第五條 本科學科ノ内外國語ハ英語ノ外尙ホ支那佛朗西日耳曼西班牙伊

太利、露西亞ノ六國語ニ就キ一語ヲ撰修セシムルモノトス
 但某國語ノ志望者僅少ナルトキハ其國語ヲ設ケズ更ニ他ノ國語ヲ擇
 ハシムルコトアルベシ

第三章 學年、學期、休業規程

第六條 學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月廿四
 日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ四月十日ニ至リ第三學期ハ四月
 十一日ヨリ七月十日ニ至ル

第八條 年中休業左ノ如シ

- 一 毎日曜
- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭

豫科學科課程表

科目	年限	年		
		第一週	第二週	第三週
英語	九	九	九	九
體操	三	三	三	三
時間合計	三四	三四	三四	三四

豫科學科課程表

科目	年	限	倫理	書法	作文	數學	簿記	圖畫	物理	化學	博物	英語	體操	時間合計
第一週	一	時	一	三	二	四	二	二	三	三	二	九	三	三四
第二週	二	時	一	三	二	四	二	二	三	三	二	九	三	三四
第三週	三	時	一	三	二	四	二	二	三	三	二	九	三	三四

本科學科程表

科目	年限		
	第一	第二	第三
商用作文	二	二	二
商業算術	二	二	二
簿記	四	二	二
商 品	二	二	二
商業地理	二	三	三
商業歷史			四
經濟及統計	二	二	四
法 律	二	二	三
英 語	六	六	六
佛、西、獨、 伊、支、露語 ノ内一語	三	三	三
商業要項及 實踐	四	五	八
體 操	三	三	三
時間合計	三三	三三	三一

- 一 天長節
- 一 新嘗祭
- 一 孝明天皇祭
- 一 紀元節
- 一 春季皇靈祭
- 一 神武天皇祭
- 一 夏季休業
七月十一日ヨリ
九月十日ニ至ル
- 一 冬季休業
十二月廿五日ヨリ
一月七日ニ至ル
- 一 各學期試業後
各一週間

第四章 入學、在學、退學規程

第九條 入學期ハ每學年ノ始トス
但時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルベシ

第十條 本校ニ於テ適當ト認メタル公私立尋常中學校ノ卒業生ニシテ該校長ノ品行方正、學術優等、身体壯健ト認證シタル者ハ相當ノ人員ヲ限リ試験ヲ要セス豫科ニ入學ヲ許スベシ

其他官公立學校ニシテ普通學ノ程度尋常中學校ト同等以上ト認メタル學科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ前項ニ準ス

但本條ノ特待ヲ與ヘタル後ト雖モ入學生ノ成績ニ依リ特待ヲ止ムルコトアルベシ

第十一條 本校ニ於テ適當ト認メタル公私立商業學校ノ卒業生ニシテ該校長ノ品行方正、學術優等、身体壯健ト認證シタル者ハ特ニ和漢文、英語、數學、物理、化學、博物ノ内數科若クハ全科ニ就キ其學力ヲ試験シ合格シタル者ハ豫科ニ入學ヲ許スベシ

但第十條第三項ハ本條ニモ之ヲ準用ス

第十三條 第十條第十一條ニ掲クル外ノ入學志願者ハ年齡滿十七年以上

ニシテ身体壯健、品行方正左ノ試験ニ合格スヘキ學力ヲ有スル者タルヘ

豫科入學試験課目

- 一 和漢文訓解
- 一 書法楷行草三體
- 一 作文私用文ノ内
- 一 數學算術、代數、幾何(平面、立体)
- 一 地理内外國
- 一 歴史内外國
- 一 圖書自在書
- 一 物理大意
- 一 化學大意
- 一 博物大意

一 英語書取、會話、反辭

一 體格

第十三條 入學試験ハ尋常中學校卒業ノ程度ニ準スト雖モ各課目評點數五十點以上ニシテ諸課目評點平均數六十五點以上ニアラサレハ合格トセス

第十條ニ該當スル者及第十一條又ハ第十二條ノ試験ニ合格シタル者ニシテ其成績特ニ優等ナル者ハ願ニ依リ更ニ口述試験ヲ行ヒ合格シタル者ハ直ニ本科第一年級ニ入學ヲ許スコトアルベシ

第十四條 各高等中學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ試験ヲ要セス本科第一年級へ入學ヲ許スベシ

但人員ノ都合ニ依リテハ入學ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十五條 入學志願者ハ第一號及第二號ノ書式ニ倣ヒ入學願書並學業履歷書ヲ差出スヘシ

第十六條 第十二條ニ依リ入學試験ヲ受ケント欲スル者ハ金三圓第十一

條ニ依リ試験ヲ受ケント欲スル者ハ金壹圓五拾錢ヲ受験料トシテ願書

ニ添へ本校へ納ムヘシ但一旦受納ノ上ハ之ヲ返付セサルモノトス

第十七條 願ニ依リ一旦退學セシ者再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上入學ノ

期ニ於テ原級以下ノ級ニ編入スルコトアルヘシ

第十八條 入學試験ニ關シテハ第十三條第一項ヲ除クノ外總テ試業規程ヲ準用ス

第十九條 入學許可ノ命ヲ得タル者ハ其當日ヨリ五日以内ニ證人ト同道

ニテ第三號書式ノ誓書ヲ本校へ持參スヘシ

第二十條 正副證人ハ俱ニ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ於テ一家ヲ立テ學生々徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ者ニ限ル

第二十一條 正副證人死去若クハ東京府外ニ轉住スル事等アルトキハ速ニ之ヲ補闕シ補闕シタル證人ヲシテ證書ヲ出サシムヘシ又正副證人旅行

スル事アルトキハ直ニ之カ代理ヲ立テ其旨届出ヘキハ勿論府内ニ轉居
 シ或ハ改印等ヲナシタルトキモ亦速ニ届出ツヘシ
 第廿二條 入學許可ノ命ヲ得ルト雖若シ第十九條ノ成規ニ違フトキハ如
 何ナル事情アルモ入學ヲ許可スルコトナシ
 第廿三條 學生々徒校規ニ悖戾シ若クハ不行狀甚シキ者ハ退學ヲ命スベ
 シ
 第廿四條 數々遅刻闕課シ出席常ナラサル者又ハ引續キ三ヶ月以上闕課
 スル者ハ除名スベシ
 第廿五條 學年ノ評點ニ不合格ナルコト引續キ再度ニ及フトキハ除名ス
 ベシ
 第廿六條 本規程中入學退學及除名ニ關シテハ學業ノ成績平素ノ行狀及
 事故ノ如何ヲ參酌シ特別ノ處分ヲ爲スコトアルベシ
 第廿七條 在學中都合ニ依リ一年志願兵トナリタル者服役終リテ復校セ

ントキハ試験ヲ須ヒスシテ原級ニ編入スヘシ
 第廿八條 學生々徒退校セント欲スルトキハ保證人連署ノ願書ヲ差出スヘ
 シ

第二號書式 (用紙美濃紙ニツ折一通)

入學願書

私儀御校へ入學志願ニ付何卒御試験ノ上御許可被成下度依テ別紙履
 歷書相添此段相願候也

在籍地族籍職業

(某子弟又ハ被後見人)

年月日

姓 名 印

何年何月日生

宿所東京府何郡區町村番地

高等商業學校長氏名殿

第二號書式 (用紙前同斷一通)

學業履歷書

學業

一年月日何地官公私立何學校ニ入り何學科何等級修業或ハ全學科卒業或ハ何某ニ從ヒ何學何年間受業用書何々

(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫ヲ添フヘシ)

賞罰

一年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ル等

以上

年月日

姓

名

第三號書式

(用紙前同斷一通)

誓書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ始終御規則ヲ遵守シ特ニ在學中ハ專心ニ勉勵シ卒業ニ至ルマテ猥ニ退學等致ス間敷候依テ誓

書如此候也

在籍地族籍職業

(某子弟又ハ被後見人)

年月日

姓

名 印

何年何月何日生

宿所東京府何郡區町村番地

前文某今回入學御許可相成候ニ付テハ在學中御規則堅ク爲相守且本人ニ係ル一切ノ事件ハ拙者共引受可申ハ勿論平素御校御趣旨ノ在所ヲ協賛シ俱ニ督勵可致候依テ保證如此候也

族籍職業

正證人

姓

名 印

年月日

宿所前同斷

副證人

姓

名 印

宿所前同斷

高等商業學校校長氏名殿

前書正證人某丁年以上ニシテ當郡區内ニ於テ一家ヲ立ル者ニ相違無之候也

何郡區長印

前書副證人某以下同文

何郡區長印

第五章 試業進級及卒業規程

第二十九條 試業ハ每學期ノ末ニ於テ之ヲ行フ

第一及第二學期ノ末ニ於テハ各學期中ニ履修シタル學課ニ就キ試験ヲ行フ之ヲ學期試業トス

第三學期ノ末ニ於テハ其學年中ニ履修シタル學課ニ就キ試験ヲ行フ之ヲ學年試業トス

第三十條 試業ハ口述筆記實地ノ三法ヲ適宜使用シ其成績ヲ案檢シテ評點ヲ施スモノトス

第三十一條 試業評點ハ各課目一百點ヲ以テ最高點トシ各課目評點數四十點以上ニシテ諸課目評點平均數六十點以上ヲ及第點トス

但試業ニ闕席シタルトキハ之ニ零點ヲ附ス

第三十二條 病氣其他正當ノ理由ヲ以テ一回ノ學期試業ニ闕席シタルトキハ他ノ學期試業評點ノ半數ヲ以テ闕席シタル試業ノ評點ニ充ツ又學年試業ニ闕席シタルトキハ平素ノ學力行狀ヲ斟酌シ追試業ヲ行フコトアルベシ

但一學年中試業闕席二回ニ及フ者ハ本文ノ例ヲ須ヒス原級ニ止ムベシ

第三十三條 學期日課評點平均數ハ第一第二學期ニ於テ各學期間ノ日課評點ノ總和ヲ該學期間一般ニ課シタル日課ノ數ヲ以テ除シテ之ヲ定ム學年日課評點平均數ハ第三學期ニ於テ前項ノ方法ニ依リ得タル日課評

點平均數ニ第一及ヒ第二學期ノ日課評點平均數ヲ加ヘ三除シテ之ヲ定ム

但教員ノ見込ニ依リ試業ヲ行ヒ其評點ヲ以テ日課評點トナスコトヲ得
第三十四條 各課目學期評點ハ各課目ノ學期試業評點ニ各課目ノ學期日課評點平均數ヲ和シ二除シテ之ヲ定ム

但日課評點ナキモノハ直ニ學期試業評點ヲ用フ
第三十五條 各課目學年評點ハ各課目ノ學年試業評點ニ學年日課評點平均數ヲ和シ二除シテ之ヲ定ム

第三十六條 各課目學年平均評點ハ第一及第二學期評點ヲ平均シテ得タルモノニ學年評點ヲ和シ二除シテ之ヲ定ム
或ル課目ノ授業一學期ニ止ルトキハ其學期評點ヲ學年平均評點トシ又二學期ニ止ルトキハ學年試業ヲ行ヒ其學年評點ト學期評點又ハ學期評點平均數ヲ合セ二除シテ學年平均評點トス此場合ニ於テ學年日課評點

平均ハ二學期ノ日課評點平均數ヲ用フ

但病氣其他正當ノ理由ヲ以テ學期試業ヲ闕クトキハ學年試業評點ノ半數ヲ以テ闕席シタル試業ノ評點ニ充ツ

第三十七條 諸課目學年總平均評點ハ各課目學年平均評點ノ總和ヲ課目ノ數ヲ以テ除シテ之ヲ定ム

第三十八條 及落ハ學課評點ト行狀評點トヨリ成レル學年總評點ニ由リテ之ヲ定ム

第三十九條 行狀點ハ學生々徒行狀ノ良否ヲ表スルモノニシテ其行狀ノ特ニ賞スヘキモノニハ正點ヲ附シ不良ノ行爲アル者ニハ負點ヲ與フ

第四十條 學年及第點ハ諸課目學年總平均評點ニ該學年中ノ行狀點ヲ増減シテ仍六十點以上ヲ合格ト定ム

第四十一條 學年末ニ於テ及第點ヲ得タル者ハ原級ニ止ムベシ
第四十二條 每學年ノ終ニ於テ試業表ヲ製シ各學生々徒試業ノ成績ヲ其

證人ニ報告スヘシ
第四十三條 本科第三年生ニハ最後ノ學年試業マテニ商業ニ關スル事項ニ就キ論文ヲ作ラシムヘシ

第四十四條 最後ノ學年ノ評點ニ於テ合格ノ點數ヲ得タルモノニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

卒業者中本科第一年以後毎學年ノ評點ヲ通算シテ各科目六十點以上諸課目平均九十點以上ヲ得タル者ニハ特ニ優等卒業證書ヲ授クルモノトス

但行狀ニ於テ一旦負點ヲ得タルモノ正點ヲ以テ之ヲ消却シ得サルトキハ本文ノ限ニ在ラス

卒業證書式

優等卒業證書

姓 名
族 籍

姓 名

本校定ムル所ノ規則ニ依リ全學科ヲ修了シ其成績優等ナリ因テ此證書ヲ授與ス

年月日

高等商業學校長 氏

名 印

卒業證書

族 籍

姓 名

本校定ムル所ノ規則ニ依リ全學科ヲ修了セリ因テ此證書ヲ授與ス
年月日
高等商業學校長 氏 名 印

第六章 研究科規程

第四十五條 研究科ハ本科卒業生ニシテ尙ホ其所修ノ學科ヲ深ク研究セシト欲スル者ノ爲メニ設クルモノトス